

平成 21 年度事業報告

自 平成 21 年 4 月 1 日～至 平成 22 年 3 月 31 日

会長・理事 青 山 友 紀

次期会長・理事	津田俊隆	理事	三宅 功	理事	澤谷邦男
副会長・理事	広崎膨太郎	理事	大村佳久	理事	益 一哉
副会長・理事	吉田 進	理事	大石進一	理事	大田友一
副会長・理事	原島 博	理事	山田敬嗣	理事	松嶋敏泰
副会長・理事	小柴正則	理事	安達文幸	理事	並木淳治
理事	村田正幸	理事	酒井善則	理事	板屋義夫
理事	中沢正隆	理事	持田侑宏	理事	横矢直和
理事	秋葉重幸	理事	三木哲也	監事	正村達郎
理事	桑原秀夫	理事	香田 徹	監事	羽深龍二
理事	田中良明				

事業概況

平成 21 年度は、本格的ソサイエティ独立採算化を押し進め、健全な財政基盤を維持する取組みを実施した。また、企業会員の減少傾向に対する会員増強の取組みをはじめとする学会共通の課題に対処するため企画室に設置した検討 WG を中心に、以下の取組みを実施した。

(新法人法への取組み) 非営利型一般社団法人として申請する方針のもとに、法人法に準拠した定款変更(案)、規則変更(案)、各種規程(案)の検討を進めるとともに、申請に必須である監督官庁の指導基準を満足するための施策、具体的には、内部留保水準適正化のための基金規程の制定、旅費支給規程等の改正、支部等内部会計単位の経理処理の適正化施策等を実施した。また、公益認定等委員会への相談結果に基づき、すべての正員等の選挙権/被選挙権を保障する新代議員選挙規程(案)を策定し、申請の準備を進めた。

(技術者倫理の検討) 平成 21 年 4 月に本会常設機関として倫理委員会を設置した。また、倫理綱領の改定(案)、行動指針及び 10 分野からピックアップした仮想事例を含めた事例集を作成するとともに、3 月総合大会の場で倫理綱領の改定状況の紹介と今後の課題についてのパネルディスカッションを行った。

(グローバル化への取組み) 企画室と連携したタスクフォースを国際委員会傘下に設置し、主にアジア諸国の会員向けニューズレターとして Global Plaza を刊行し、会誌及び本会ホームページにて掲載するとともに海外会員にメールマガジンとして配信した。

(Web システム改善の検討) 会員等利用者の利便性の観点から、本会の Web システムを見直し、ID、パスワードを統一するシングルサインオン、会員情報連携などの機能を含めた Web 統合化システムの検討を推進した。Web システム改善のための機能仕様を整理し、具体的改善に着手した。

(企業向け学会価値向上策についての検討) 主に企業の開発部門に所属する会員から見た本会の価値向上策を検討する WG を新設、以下の施策をまとめ、短期施策については一部実施を決定した。①国際的展示会(CEATEC 等)での本会研究会の併設開催、②出合いの場としての学会機能の強化、③技術者向けサービスの強化、④本会の情報発信機能の強化と

して政策提言等への対応と仕組み、⑤ ICT 産業再発展に向けた産官学+学会連携シンポジウムの企画(平成 22 年 5 月 8 日開催予定)。

(論文誌の公開方針の検討) オンライン化を完了した本会論文誌に関して、無料公開の是非論を整理する目的で WG を新設、メリット、デメリット及び財政面からの検討など、様々な角度からの検討を開始した。

(支部改革の検討) 新法人への移行申請を控え、支部のあり方についての検討を加速する目的から 4 月理事会で支部担当理事を置くことを決定した。これにより、本年度、新しく支部担当理事、会計理事、各支部の支部長等役員を構成メンバーとする「支部連絡会」を開催し、支部の経理面での改善策を審議・実施した。具体的には、支部活動を活性化させることを大前提に支部活動活性化基金規程を制定するとともに支部会計の決算主義への移行を決定、支部繰越金の概念を廃止することにより、法人としての一体化運営を明確にした。

その他の本部活動として、シニア会員制度の本格実施、マイページの機能拡充などの会員サービスの向上、並びに教育活動の展開に継続して取り組み、ソサイエティ活動では、技報オンライン化の試行実施を含め、利用者利便向上の活動を強化した。以下に項目別に実施の概要を記す。

(1) 会員サービスの向上に関して：

- 論文誌は、平成 21 年 4 月から、図書館等の特殊員を含めて和・英オンラインジャーナルを機関誌として配信するサービスに切替えを完了した。
- 次期総合版ハンドブックについては、準備会でデータベース化したハンドブック(知識ベース)の構築に対して群編構成、編主任を固め、執筆を進めている。一般公開に先立ち、一部準備が整った編から会員に対してβ版の公開を開始した。
- 会員の定着及び会費収入の安定化を図るため平成 19 年度から会費を前納制に切り替えたが、これによって学生員から正員に移行する段階での退会者数が減少する効果が見られた。この効果が一過性であるかどうかの確認と更なる会員増強策の検討を継続的に行う。
- マイページの興味分野登録機能を改善し、研究会からの情報発信サービスを実施するとともに、シニア会員申請

リンクなどの機能を拡充した。本人経歴（役職履歴、受賞履歴など）の掲載、各種申請など、更なる機能の充実を図り、会員サービスを向上する。

- 海外会員及び外国人会員に対する会員制度の見直しの一環として、正員(海外)の呼称を廃止し、海外会員に対する割引制度を明確にする決定をした。
- 男女共同参画委員会は、昨年に続いて平成22年3月の総合大会会場に託児施設を開設して、女性会員が積極的に学会活動に参加できるように利便を図った。
- 学生会連絡会では、平成22年3月の総合大会の場で第一回学生員向けコミュニティを開催し、学生ブランチの活動紹介等の交流を図った。今後、継続したイベントとする。

(2) 教育活動に関して：

本会の教育活動の充実を図り、その活動を束ねるために組織された「教育活動協議会」のもとで、教育活動関係の4委員会(生涯教育委員会、ア krediteーション (Accreditation Policy Council) 委員会、CPD (Continuing Professional Development) 委員会、小中高生科学教室委員会)が以下の活動を展開した。

- ①先端オープン講座の実施、②JABEEの学部認定審査及びJABEE審査講習会の開催、③CPD会員システムのトライアル運用と資格ランクの設定、④青少年の科学離れを阻止するための「子供の科学教室」活動の実施。

(3) ソサイエティ関連活動に関して：

- 基礎・境界ソサイエティでは、新電子論文誌 Nonlinear Theory and Its Applications, IEICE (略称 NOLTA) の発行検討を推進し、平成22年10月創刊の予定である。
- 通信ソサイエティでは、技報電子化トライアルを継続し、また、大会コンテンツをWeb閲覧できる「CS アーカイブス」のサービスを開始した。
- エレクトロニクスソサイエティでは、平成9年～平成19年までの技術研究報告を検索・閲覧、ダウンロード可能なサービスの試行運用を開始した。
- 情報・システムソサイエティ、ヒューマンコミュニケーショングループ関連では「FIT (Forum on Information Technology) ; 情報科学技術フォーラム」を情報処理学会と合同開催した。

(4) その他の事項：

- 平成16年度に発足した「電気・情報関連学会連絡協議会」では、新法人法に対する取組みを共通かつ最重要課題と位置付け、貴重な議論・情報共有を行った。以下に各事業の実施状況を報告する。

I. 本部事業

1. 出版に関する事項

1.1 会誌の発行状況 (定款 第6条イ)

全会員に共通の場として重要なメディアである会誌は、平成21年4月から22年3月まで12冊、合計385,700部(月平均32,142部)を発行配布した。

平成21年度の会誌記事の内容・件数及びページ数は次のとおりである。

種類	件数	ページ数	種類	件数	ページ数
講演	1	7	寄書	2	10
4月小特集(ユビキタス時代の屋内位置検知技術)	7	34	回想	2	8
5月特集(私の国際交流の経験)	18	88	学生/教養のページ	13	39
6月小特集(CMOSデバイスの微細化に伴う特性ばらつき増大とその対策)	6	37	オビニオン	3	12
7月小特集(IMT-RにおけるIMT-Advanced標準化動向)	8	38	ニュース解説	17	30
8月小特集(パターン認識・メディア理解のランドチャレンジ)	6	37	総合報告	1	17
9月小特集(地球を測り、暮らしと環境を守るための衛星技術)	7	36	ソサイエティのページ	1	2
10月特別小特集(知の創出を支える次世代IT基盤技術—北海道大学情報通信系GCOEと道内情報通信系研究グループの活動—(北海道支部))	7	26	情報ネット	1	4
11月特集(感性情報学)	31	87	—いま、学会では—		
12月小特集(学力評価の最前線)	8	34	男女共同参画のページ	0	0
1月特別小特集(あの技術は今)	6	28	学生会報告	2	15
1月小特集(生活に役立つメディア処理—料理行動を科学する—)	5	26	支部だより	2	2
2月小特集(最新のミリ波技術の動向)	5	26	予定目次	12	1
3月小特集(太陽エネルギー発電の現状と将来展望)	7	35	学会ニュース	0	0
			慶賀	0	0
			追悼抄	5	5
			国際会議	30	2
			図書紹介	26	13
			国内文献目次		6
			図書寄贈一覧		21
			本会だより		12
			編集室		21
			役員等口絵		8
			総会・選奨		77
			フェロー口絵		2
			会誌総目次		11
			学会編集室		7
			会報		0
			計		1,132
			巻頭言		12
			目次		36
			会告		672
			論文誌目次		130
			合計		1,982

*その他：広告(カラー、前付、後付等) 176.5 ページ

1.2 広告賞 (定款 第6条イ)

平成21年広告賞として下記の2点を選定した。

【カラー広告部門】 (株)NTTドコモ

「手のひらに、明日をのせて。」 (3,7,8,10,11月号)

【一色刷り広告部門】 エム・アールエフ株式会社

「高周波部品に特化したカタログ通販・ネット通販がアメリカから上陸」 (3,5月号)

1.3 ハンドブック (定款 第6条ト)

(第8次) ハンドブック/知識ベース委員会において、次期総合版ハンドブック(知識ベース)を構築するためポータルサイトのデザイン、内容等のより具体的な検討を行った。また、一般公開に先立ち、準備の整った編から会員限定でのβ版公開を開始、その後も順次アップロードを行った。

1.4 単行本 (定款 第6条ト)

平成21年度は新刊1点1,000部を発行した。新刊書は次のとおりである。

新刊書名	判型	発行年月日	ページ数	部数
攻めと守りのシステムセキュリティ	A5	H21.4.20	192	1,000

1.5 教科書「電子情報通信学会大学シリーズ」(全59巻) (定款 第6条ト) (コロナ社委託出版)

昭和55年8月以降既刊書目52点。平成21年度は重版7点を発行した。

1.6 教科書「電子情報通信レクチャーシリーズ」(全65巻) (定款 第6条ト) (コロナ社委託出版)

大学院及び学部の学生を対象とし、併せて一般勉学者の参考に供するための新シリーズの教科書として平成21年度は新刊1点、重版6点を発行した。

新刊書は次のとおりである。

新刊書名	発行年月日	ページ数	部数
バイオ情報学 —パーソナルゲノム解析から生体シ ミュレーションまで—	H21.6.30	172	800

(平成14年3月第1回配本以降通算24点)

2. 会議に関する事項 (定款 第6章)

2.1 第83回通常総会

平成21年5月23日(土)午後2時から機械振興会館において第83回通常総会を開催した。社員総数171名に対し、出席社員数125名(委任状を含む)で、定款第45条に定める社員総数の過半数の出席に達した。宮原会長を議長として下記議案を付議して、いずれも原案どおり可決承認した。

平成20年度事業報告について

平成20年度収支決算報告について

平成21年度事業計画(案)について

平成21年度収支予算(案)について

2.2 理事会、評議員会

年度内に8回の理事会を開催し、うち3回を評議員会と共同で開催した。

2.3 支部長会議

平成22年3月17日(水)に開催し、各支部の活動報告、本部一支部間の意見交換を行った。

2.4 海外セクション代表者会議

国際委員会は海外セクション代表者8名が、各セクションにて講演会等を企画・実施することに協力するとともに、本会活動の周知・宣伝に努めた。また、第8回海外セクション代表者会議を総合大会期間中(東北大学)の3月18日に開催し、バンコク、北京、韓国、上海、シンガポール、台北から代表者が出席し意見交換を行った。

各セクションにおいての講演会等の実施件数は次のとおりである。

セクション	件数	セクション	件数
バンコク	1	韓国 (Information)	0
北京	2	上海	3
韓国 (Communication)	1	シンガポール	3
韓国 (Electronics)	1	台北	1

3. 規格調査会に関する事項 (定款 第6条二)

委員会議を4回、専門委員会及び小委員会を76回開催した。国際標準化に関して取り扱った。

委員会名	委員長名	委員数	開催数		
規格調査委員会	三木 哲也	16	4		
	専門委員長名	専門(委)	小(委)	専門(委)	小(委)
1 電子部品のデータ要素	堀内 一	0	22	0	5
2 通信伝送線及びマイクロ波受動部品	小林 禎夫	11	42	2	15
3 周波数制御・選択デバイス	関根 好文	22	36	3	3
4 光ファイバ	川瀬 正明	20	65	4	18
5 デザインオートメーション	神戸 尚志	16	35	6	5
6 無線通信用送信装置	小川 博世	17	23	1	4
7 電子通信用語	吉村 久乗	24	0	0	0

8 電子通信記号	—	14	0	0	0
9 複雑システムの安全規格委員会	鈴木 喜久	10	0	6	0
合 計		150	223	26	50
		373		76	

IEC 文書は1,211件であった。

4. 選奨に関する事項 (定款 第6条ホ、ヘ)

本年度の各選奨は所定の手続きによって選考が進められ、次のとおり各受賞者を決定した。

4.1 功績賞 (第71回)

甘利 俊一 (理研)

伊藤 弘昌 (JST)

内田 直也 (JITA)

中村 慶久 (岩手県立大)

韓 太舜 (早大)

以上5名

4.2 業績賞 (第47回)

選奨規程第9条イ項によるもの

(業績名五十音順)

業 績	貢 献 者 (所 属)
グラフアルゴリズムの革新とアルゴリズム工学への展開	茨木 俊秀 (京大) 永持 仁 (京大)
高性能データベース問合せ処理方式の開発	喜連川 優 (東大)
10 テラビット級 OTN (Optical Transport Network) 基盤技術の先駆的研究	宮本 裕 (NTT) 富澤 将人 (NTT) 佐野 明秀 (NTT)

以上3件

選奨規程第9条ロ項によるもの

(業績名五十音順)

業 績	貢 献 者 (所 属)
EMC 測定評価技術の開発と国際標準化への貢献	杉浦 行 (NICT)
MOS 型集積回路の製造プロセス・デバイス設計支援技術の開発	谷口 研二 (阪大) 鎌倉 良成 (阪大)
デジタルブリディストーション技術による高効率電力増幅装置の実用化	大石 泰之 (富士通研) 久保 徳郎 (富士通研究開発中心有限公司) 長谷 和男 (富士通研)

以上3件

4.3 論文賞 (第66回)

(分冊別掲載年月順)

A	論文名 Strongly Secure Linear Network Coding 著者名 原田邦彦・山本博資 (東大) 掲載年月 平成20年10月号 (EA)
A	論文名 Extended Password Recovery Attacks against APOP, SIP, and Digest Authentication 著者名 佐々木 悠 (NTT), 王 磊・太田和夫 (電通大), 國廣 昇 (東大) 掲載年月 平成21年1月号 (EA)
A	論文名 Error-Trellis Construction for Convolutional Codes Using Shifted Error/Syndrome-Subsequences 著者名 田島正登・沖野浩二・宮腰 隆 (富山大) 掲載年月 平成21年8月号 (EA)
B	論文名 無線センサノードのためのハードリアルタイム保証が可能な仮想マシン 著者名 鈴木 誠・猿渡俊介・南 正輝・森川博之 (東大) 掲載年月 平成21年1月号 (B)
B	論文名 高分解能到来方向推定のためのアレーキャリアプレーション手法 著者名 山田寛喜 (新潟大) 掲載年月 平成21年9月号 (B)
B	論文名 Introduction of Frequency-Domain Signal Processing to Broadband Single-Carrier Transmissions in a Wireless Channel 著者名 安達文幸・留場宏道・武田一樹 (東北大) 掲載年月 平成21年9月号 (EB)
C	論文名 TMR ロジックに基づくルックアップテーブル回路とその瞬時復帰可能 FPGA への応用 著者名 鈴木大輔・夏井雅典・羽生貴弘 (東北大) 掲載年月 平成21年7月号 (C)

C	論文名 著者名 掲載年月	高調波負荷を最適化した高出力低位相雑音 76GHz MMIC 発振器 渡辺伸介・松塚隆之・天清宗山・後藤清毅・奥 友希・石川高英 (三菱電機) 平成 21 年 7 月号 (C)
C	論文名 著者名 掲載年月	A 5-bit 4.2-GS/s Flash ADC in 0.13- μ m CMOS Process Ying-Zu LIN・Soon-Jyh CHANG・Yen-Ting LIU (National Cheng Kung University) 平成 21 年 2 月号 (EC)
D	論文名 著者名 掲載年月	パターン識別のための雑制約部分空間法 小林 匠・大津展之 (産総研) 平成 21 年 1 月号 (D)
D	論文名 著者名 掲載年月	視覚的文脈を用いた人物動作のカテゴリ学習 木谷クリス真実 (電通大), 岡部孝弘・佐藤洋一 (東大), 杉本晃宏 (NH) 平成 21 年 8 月号 (D)
D	論文名 著者名 掲載年月	Approximate Nearest Neighbor Search for a Dataset of Normalized Vectors 寺沢憲吾 (はこだて未来大), 田中 譲 (北大) 平成 21 年 9 月号 (ED)

((A), (B), (C), (D) : 和文誌, (EA), (EB), (EC), (ED) : 英文誌 所属 : 掲載時の所属) 以上 12 編

4.4 喜安善市賞 (第 3 回)

論文名 著者名 掲載年月	高分解能到来方向推定のためのアレーキャリブレーション手法 山田寛喜 (新潟大) 平成 21 年 9 月号 (B)
--------------------	--

((B) : 和文誌 所属 : 掲載時の所属) 以上 1 件

4.5 学術奨励賞 (第 72 回)

基礎・境界ソサイエティ : 9 名 (五十音順)

受賞者	所属	題名	大会別	講演番号
青森 久	東京理科大	疑似オーバーサンプリング手法を用いたシグマデルタ CNN	ソサイエティ	A-2-14
井上 恵介	北陸先端大	A Note on the NP-completeness of the Ordered Coloring on Unit Interval Graphs	総合	A-1-16
		エッジリスト付き彩色問題の計算複雑度とアルゴリズムについて	ソサイエティ	A-1-9
島田 裕	埼玉大	Small-world property in Chaotic Attractors	総合	A-2-44
手塚弘招	首都大東京	時空間混合ガウス分布モデルを用いた前景分離における影領域除去	総合	A-4-31
林 直樹	阪大	Multi-tier コンピューティングシステムにおける公平なリソース配分への協調制御の応用	総合	A-12-7
		マルチティアサーバシステムにおける分散調停器を用いた QoS 公平化制御	ソサイエティ	A-12-2
宮北和之	新潟大	格子状マルチホップ無線ネットワークにおける最適経路のホップ数	総合	A-1-18
		格子状マルチホップ無線網における最小経路 MTM の解析	ソサイエティ	A-1-13
本橋 瞬	埼玉大	Parameter Tuning Method of Chaotic Search Method for Solving Traveling Salesman Problems	総合	A-2-14
山岸 昌夫	東工大	Acceleration of the Adaboost with Exact Plane Search	総合	ADS-1-10
湯川正裕	理研	MULTI-DOMAIN ADAPTIVE LEARNING	ソサイエティ	A-4-14

通信ソサイエティ : 38 名

受賞者	所属	題名	大会別	講演番号
安達宏一	慶大	周波数選択性チャネルにおける直交グループ設計を考慮した MC-CDMA 伝送の BER の検討	総合	B-5-67
		周波数領域位相回転を用いる MC-CDMA への繰り返し信号処理の適用効果	ソサイエティ	B-5-78

井浦裕貴	三菱電機	複数基地局連携送信型 MIMO 通信方式の検討 (2)	総合	B-5-44
池上大介	NTT	トークンバケットポリサ適用時の TCP スループット	ソサイエティ	B-7-44
石川一道	NTT ドコモ	提案するトンネル内入射波伝搬解析法の実験的評価	総合	B-1-7
泉川晴紀	KDDI 研	Green DTN: Delay Tolerance for Energy-Efficient Mobile Communications	ソサイエティ	BS-10-29
白井 健	KDDI 研	SIP メッセージロス区間特定に関する一検討	総合	B-6-61
大石 昇	三菱電機	合成開口レーダのコヒーレント変化抽出のためのコヒーレンスマップ改善	総合	B-2-8
		起伏のある地形の合成開口レーダ画像へのコヒーレンス改善法の適用	ソサイエティ	B-2-27
大河原純哉	NTT ドコモ	歪成分の周波数依存性を補償するデジタルプリディストータにおける周波数特性補償器係数の高速推定法	総合	B-5-7
		歪成分の周波数依存性を補償するデジタルプリディストータの係数設定時間短縮に関する実験検討	ソサイエティ	B-5-8
大野陽平	NTT	集中制御型 FFR におけるリソース制御を適用したシステム容量改善効果	総合	B-5-140
		分散制御による周波数リユース可変方法の提案	ソサイエティ	B-5-116
柏木一平	東芝	折返し逆 L アンテナのデュアルバンド化	ソサイエティ	B-1-121
鎌村星平	NTT	A scalable backup configurations creation for IP-FRR	総合	BS-4-5
		Minimum backup configuration creation method for IP Fast Reroute	ソサイエティ	BS-10-3
川上由紀	福井大	方形ループスロット型 FSS を用いた AMC の設計	総合	B-1-163
川原圭博	東大	Web サービス連携によるアプリケーションからのネットワーク制御管理技術	ソサイエティ	B-16-3
菊池 悟	千葉大	MR 撮像時の電磁波による胎児内温度上昇—羊水による熱拡散の評価—	総合	B-4-8
		MR 撮像時の電磁波曝露で生じる妊娠女性の深部温度上昇解析	ソサイエティ	B-4-6
古敷俊優	NTT	PNC-OFDR を用いた長距離測定における分解能制限要因の検討	総合	B-13-40
		3 次側波帯掃引を適用した PNC-OFDR による 10km レンジ・mm 分解能反射測定	ソサイエティ	B-13-34
静野隆之	NEC	更新イベント情報配信システムのための配信ツリー構築手法	総合	B-7-116
		更新イベント情報配信ツリーの再構築手法	ソサイエティ	BS-5-2
澁谷幸司	三菱電機	伝送特性劣化を低減するピア配置手法の検討	総合	B-4-56
		ツイストペアケーブル間で発生するクロストークのピーク周波数に関する検討	ソサイエティ	B-4-64
鈴木陽一	NHK	高度衛星デジタル放送用 32APSK 変調へのフラインド適応等化器の適用に関する一検討	総合	B-3-25
高橋智宏	三菱電機	フェーズドアレーアンテナの位相制御によるビーム走査時固定ナル点形成	ソサイエティ	B-1-117
高林佑樹	三菱電機	複数センサ間の TDOA/FDOA を利用する非同期追尾接続方式	総合	B-2-44
		最適 RSE を利用したカルマンフィルタパラメータ設計法	ソサイエティ	B-2-13

田久 修	東京理科大	ブロック伝送型マルチユーザ OFDM におけるピーク電力と通信路容量のトレードオフを実現する副搬送波リソース割り当て法	総合	B-5-78
張 亮	ソフトバンクモバイル	SCTP による LTE/SAE 制御信号を想定した MPLS パス切替の影響に関する一考察	ソサイエティ	B-7-63
西川大祐	NTT ドコモ	Evolved UTRA 上りリンクにおける基地局アンテナの垂直面指向性を考慮した Fractional 送信電力制御の特性評価	総合	B-5-23
野一色裕人	KDDI 研	Web サーバによる事前名前解決手法の一検討	総合	B-6-24
		Web サーバによる事前名前解決手法の評価	ソサイエティ	B-16-2
林 哲也	住友電工	振動による偏波変動速度のファイバパラメータ依存性	総合	B-10-68
平賀 健	NTT	ミリ波帯超高速近距離パラレル伝送に関する検討	総合	B-1-246
		マイクロストリップアンテナを用いたミリ波帯超高速近距離パラレル伝送	ソサイエティ	B-1-207
平野由美	NEC	無線 LAN における TCP フロー公平性に対するトラフィック制御の提案と初期評価結果	総合	B-7-68
真下大輔	日立	10G-EPON における OLT 方式検証ボード装置のバースト同期時間評価	総合	B-8-30
		10Gb/s バーストモード受信機の開発	ソサイエティ	B-8-16
松本延孝	KDDI 研	仮想ネットワーク資源のためのドメイン間資源制御インタフェースの設計	総合	B-6-45
南川敦宣	KDDI 研	多人数参加型コンテンツのマルチキャストスケジューリング手法	ソサイエティ	B-15-12
宮部 亮	古河電工	1.0 μ m 帯用 Hole-Assisted Fiber	ソサイエティ	BS-7-5
森谷高明	NTT	BACnet/WS を用いたビル監視システムのオーケストレーション連携に関する一考察	総合	B-19-14
		SDK の利用による Parlay X アプリケーション作成時の生産性に関する一考察	ソサイエティ	B-19-13
柳生健吾	NTT ドコモ	高速移動環境における LTE ハンドオーバー特性評価	ソサイエティ	B-5-20
山梨陽子	古河電工	超短パルス増幅用偏波保持 EDF の開発	ソサイエティ	B-13-16
山本 嶺	早大	アドホックネットワークにおける公平性を考慮したウィンドウ制御手法	ソサイエティ	B-6-5
吉田 剛	三菱電機	差動 16-QAM 信号への Viterbi 復号の適用に関する一検討	総合	B-10-45
		16 値 APSK 遅延検波のための符号判定方式の比較	ソサイエティ	B-10-74
劉 楽	NEC	Cell-edge User Throughput Improvement for LTE-Advanced Uplink	総合	BS-3-9
		Performance of Downlink Coordinated Multipoint Joint Transmission for LTE-Advanced under Bursty Traffic model	ソサイエティ	B-5-24
渡邊陽介	三菱電機	不等間隔メッシュ FDTD 法を用いたシールド特性の計算	総合	B-4-90
		シールドシース付き平衡ケーブルのノイズ耐性評価に関する検討	ソサイエティ	B-4-66

エレクトロニクスソサイエティ：15名

受賞者	所属	題 名	大会別	講演番号
石橋二郎	横浜国大	帯状導体で発生する相互変調ひずみの FDTD 解析	総合	C-5-2
		定在波同軸管法とインピーダンス整合法における PIM 源寸法の影響評価	ソサイエティ	C-5-5
板倉成孝	三菱電機	RF 光伝送用高出力 PD アレーモジュール	総合	C-14-11
		高 RF 出力 InGaAs/InP pin-PD	ソサイエティ	C-4-19
上杉利次	三菱電機	100G イーサネット用 25.8/28Gbps EAM-LD モジュールの開発	総合	C-4-26
大上晃一	呉高専	60GHz 帯反射形自己注入同期 NRD ガイド管共振器の位相雑音解析	総合	C-2-3
		双方向出力端を有する 60GHz 帯反射形自己注入同期 NRD ガイド管共振器の位相雑音解析	ソサイエティ	C-2-1
尾崎亮介	日大	方形誘電体を中間層に持つ多層誘電体グレーティングによる電磁波の散乱	総合	C-1-36
		多層誘電体グレーティングによる電磁波の散乱—中間層に方形誘電体を持つ場合—	ソサイエティ	C-1-22
橋川雄亮	三菱電機	高調波抑圧帯域可変 LPF	総合	C-2-7
木寺正平	電通大	多重散乱開口合成に基づく UWB レーダ影領域立体イメージング手法	総合	C-1-11
		参照波形最適化に基づく拡張 Capon 法を用いた高解像度 UWB レーダイメージング法	ソサイエティ	C-1-8
小林 亘	NTT	10Gb/s 1.55 μ m 帯 EADFB レーザの広温度範囲(-25-100 $^{\circ}$ C) SMF80km 伝送	総合	C-4-27
		1.55 μ m InGaAlAs EADFB レーザの 10/40Gbps 広温度範囲動作	ソサイエティ	C-4-8
須藤あすか	千歳科技大	光切断法を利用した接点表面形状の評価システムに関する基礎検討	総合	C-5-4
		Ag 接点の開離アーク消滅時ギャップ長と接点开離速度との関係に関する実験的検討	ソサイエティ	C-5-3
高儀雄太	NTT ドコモ	共振器対面配置型小型超伝導デュアルバンド共振器およびフィルタ	総合	CS-3-2
		小型 2.1-/2.7-GHz 帯超伝導デュアルバンド帯域通過型フィルタ	ソサイエティ	C-2-47
高山直輝	東工大	CMOS プロセスによる 60GHz 帯無線送信回路の開発	ソサイエティ	C-12-20
竹本享史	日立	100Gb イーサネット向け 25Gbps 低電力 CMOS 光レシーバの開発	ソサイエティ	C-3-62
藤澤 剛	NTT	100Gbit/s イーサネット用の 1.3 μ m 帯電界吸収型変調器集積レーザによる 25Gbit/s、シングルモードファイバ 40km 伝送	ソサイエティ	C-4-10
水谷浩之	三菱電機	位相コヒーレンシー特性を有する多周波ステップミリ波発振器	総合	C-2-2
山本敦士	三菱電機	一波長線状導体を用いたミリ波帯導波管形 E 面帯域阻止フィルタ	ソサイエティ	C-2-82

情報・システムソサイエティ：8名

受賞者	所属	題 名	大会別	講演番号
石原達也	NTT	屋内におけるユーザとセンサ位置の同時推定	総合	D-9-12
糟谷 望	筑波大	自由視点映像技術を用いたサッカーシーンの選手視点映像生成	総合	D-12-106
兼頭亮介	阪大	音響電子透かしの検出強度を用いた位置推定	総合	DS-3-10
高橋知彦	KDDI 研	映像コンテンツからの検索窓高精度抽出法	総合	D-12-43

武吉朋也	KDDI 研	被リンクの時間情報に着目した Web ページの信頼性判定手法	総合	D-4-14
出口大輔	名大	車載カメラ映像から多様な標識画像を収集するための逆方向追跡に関する検討	総合	D-12-132
松尾翔平	NTT	イントラ予測モードを利用したエッジ適応デブロッキングフィルタ	総合	D-11-60
吉次孝太	京大	講義アーカイブ映像視聴時における視聴者の能動的注目行動の獲得	総合	D-15-27

5. 教育活動に関する事項（定款 第6条ロ，ハ，ヘ）

平成 18 年度に発足した生涯教育委員会，アクレディテーション委員会，CPD 委員会，小中高生科学教室委員会で構成する教育活動協議会を中心に平成 21 年度も教育活動を展開した。

5.1 先端オープン講座に関する事項

受講者の負担軽減と選択幅を広げ，タイムリーな受講を促進するため，5 回コース及び 2 日間の短期集中コースを主体とするコース編成で，春季講座及び秋季講座を開講した。受講者増加に向けた以下の取組みを継続的に実施した。① CPD（技術者の継続的な教育・能力開発）との連携に向け関連学協会と協賛した周知・宣伝。②大口受講団体の探索と継続的取り込み。③新しい技術動向のタイムリーな反映を目指した継続的なコース内容見直し。④継続的受講を促進するための 2 回目以降受講料の割引。⑤非会員受講者増大に向けたソフトウェア講座専用ホームページの開設及び継続的な新聞雑誌への講座案内記事掲載などによる広報活動の強化。また，少人数応募コースの開催を中止するとともに支出面での経費節減に努めた。

新たな取組みとして，遠隔地でのインターネットを利用した講義方式の試行実験を実施した。また，継続的なコース内容の見直し・検討の結果，新 C コース及び E コースを再編した新たな 2 コースを平成 22 年度から開始することとした。B コース（LSI 技術）は開講を中止し，新コースについての検討を開始することとした。

春季講座（5 月 9 日～7 月 11 日）と秋季講座（10 月 3 日～12 月 12 日，ただし 11 月 21 日休講）を土曜日に開講した。開講講座と受講状況は次のとおりであった。

〔春季講座〕

コ ー ス 別	受 講 者 数 ()：内団体受講数
A：情報通信ネットワーク技術	12 名
Aa：NGN とインターネット及び IP ネットワーク技術	8 名
新 C：実践プロジェクトマネジメント	41 名（1）
D：情報通信プロトコル技術	12 名（1）
E：オブジェクト指向と Java 技術	8 名
F：情報セキュリティ技術	8 名
計	89 名

（ただし，Aa，新 C，D，E，F コースは全 5 回の講座）

〔秋季講座〕

コ ー ス 別	受 講 者 数 ()：内団体受講数
A：情報通信ネットワーク技術	8 名
Aa：NGN とインターネット及び IP ネットワーク技術	6 名
新 C：実践プロジェクトマネジメント	11 名（1）
E：オブジェクト指向と Java 技術	8 名
F：情報セキュリティ技術	6 名
計	39 名

（注）秋季は，少人数受講コースの開講中止により 5 コースのみ開講

5.2 JABEE 活動

JABEE の学部認定審査はほぼ軌道に乗ってきており，平成 21 年度は定常的な活動を行った。JABEE 本体への委員の派遣をして JABEE の運営に協力するとともに，学部プログラムの審査を電気学会，情報処理学会と連携して実施した。また，審査員の確保並びに教育機関への最新規程等の周知を目的に，JABEE 審査講習会を 3 月（仙台）に開催した。

5.3 技術者の継続的な教育・能力開発

CPD (Continuing Professional Development) 委員会は，本会の技術者教育への取組みを JABEE 活動と CPD 活動を車の両輪として形成するとの位置付けから設置され，日本工学会下の CPD 協議会（平成 19 年度に PDE 協議会から改組）と連携して活動を進めている。21 年度も 20 年度に引き続いて，電気学会，情報処理学会と協力して，「電気電子・情報系 CPD 協議会」を密接に開催し，共同で協議を進めた。Web 版 CPD ポイント登録システムの試行状況を踏まえ，本格実施に向けて，イベント情報の 3 学会共有のためのフォーマット，CPD ポイントの相互換算表，技術者資格の取得と更新時の評価基準を見直し，特に，CPD 活動を学生員から企業の若手研究者・技術者向けにアピールしていくため，具体的な施策の検討を開始した。関連資料：<http://www.ieice.org/jpn/cpd/index.html>（今こそ，今すぐ，一人ひとりが人材 CPD）に掲載。

5.4 小中高校生を対象とした科学教室

小中高校生を対象とした科学教室は，子供の科学離れを防ぐための活動の一環として平成 8 年度より実施してきた。平成 21 年度も会員及び関連企業の協力のもとに，各支部と連携して，活動範囲等を拡大しながら実施した。開催回数は 19 回，参加者合計は 908 名であった。

また，本活動を支えている「子供の科学教室基金」を長期的，健全に維持するため，平成 14 年度から開始した募金活動については，平成 21 年度（平成 22 年 3 月末現在）389 名（個人 386 名，2 法人，1 団体）から約 173 万円の募金協力を得て有効に利用させて頂いている。

平成 21 年度の活動状況について以下に示す。

題 目 ・ 講 師	開催年月	参加数
科学教室：八重山商工高校会場（石垣市） テ ー マ：不思議がいっぱい科学の世界 講 師：尾上孝雄（大阪大），尾知 博（九工大），伊藤良生・笹岡直人（鳥取大）	H21.6.13	40 名
見 学 会：NHK 放送技術研究所（東京） テ ー マ：見てみよう！最先端技術の世界 講 師：久保田啓一・清水直樹・今井 亨（NHK）	H21.6.27	61 名
実習教室：東京大学会場 テ ー マ：「コンピュータ・プログラミングを自作してみよう！」 コーディネータ：池田 誠（東大） 講 師：浅見 徹（東大），山崎克之（長岡技科大），野々山 紫（NTT-AT）	H21.7.19 (午前・午後 2 回)	54 名
科学教室：埼玉大学会場（さいたま市） テ ー マ：不思議がいっぱい科学の世界 講 師：木村雄一・斉藤作義（埼玉大）	H21.7.23	38 名
科学教室：大阪大学基礎工学部システム科学科電子システム学コース一日体験入学 テ ー マ：システム工学とは 講 師：新井健生（阪大）	H21.7.29	49 名
見 学 会：NTT 武蔵野研究開発センタ テ ー マ：「見てみよう！通信技術の最先端」 講 師：池田博昌（東京情報大），石井六哉（横浜国大）	H21.7.31	74 名
科学教室：津田塾大学会場 テ ー マ：津田塾大夏の合宿 2009 *このイベントは本会が協賛致しました。	H21.8.14 ～ 16	32 名

科学教室：小・中・高校生の科学教室「夏休み科学教室」(明治大学) テーマ：数理解パズルを解くコンピュータプログラムを作ろう！ さわると反応するアニメーションを作ろう 講師：井口幸洋・石畑 清・宮下芳明 (明大) ※この企画は明治大学理工学部で毎年開催している「夏休み科学教室」の情報科学科の企画に本会が参加した。	H21.8.20	79名
体験教室：高校生のためのロボット体験教室(名古屋テレビ塔会場) テーマ：自律移動ロボット制御体験教室 講師：大道武生・小中英嗣 (名城大)	H21.8.25	12名
科学教室：日本女子大会会場 テーマ：魅力いっぱい科学の世界を体験しよう！ 講師：今井 元・小川賀代 (日本女子大)	H21.8.29	46名
科学教室：安心して生活できる社会をめざして (中央大会会場) テーマ：ひみつの話 講師：牧野光則 (中大)	H21.11.1	20名
科学教室：愛媛大学科学体験 2009 フェスティバル テーマ：動いているのに止まって見える ※本企画は愛媛大学で毎年開催している「愛媛大学科学体験フェスティバル」の企画に本会四国支部が共催	H21.11.14 11.15	150名
科学教室：八重山商工高校会場 (石垣市) テーマ：不思議がいっぱい科学の世界 講師：尾上孝雄 (阪大), 尾知 博・黒崎正行 (九工大), 伊藤良生・笹岡直人・立本純夫 (鳥取大)	H21.11.28	31名
科学教室：兵庫県立大会会場 (神戸市) テーマ：不思議がいっぱい科学の世界 講師：白川 功 (兵庫県立大), 池田博昌 (東京情報大), 石井六哉 (横浜国大), 築山修治 (中大), 小山正樹 (奈良先端大)	H21.12.5	69名
見学会：大学の研究室訪問 (日本女子大学：今井研究室・小川研究室) 講師：今井 元・小川賀代 (日本女子大)	H21.12.19	25名
見学会：大学の研究室訪問 (東京大学：工学部電子情報系・VDEC) テーマ：トランジスタ石でできる通信回路 講師：三田吉郎・山崎俊彦・久保田雅則 (東大)	H22.1.23	43名
科学教室：日本女子大会会場 テーマ：不思議がいっぱい科学の世界 司会：今井 元 (日本女子大) 講師：濱部 勝・高橋雅江 (日本女子大)	H22.2.23	15名
科学教室：琉球大会会場 テーマ：不思議がいっぱい科学の世界 講師：翁長健治・高良富夫・名嘉村盛和 (琉球大), 牧野光則 (中大)	H22.2.27	50名
科学教室：東北大会会場 テーマ：親子で学ぼう！携帯電話の全て一仕組みから安全対策まで コーディネータ：村田嘉利 (岩手県立大) 講師：安達文幸 (東北大), 安孫子 晶 (NTTドコモ), 福井 亨 (ソフトバンクモバイル), 猪俣隆弘 (KDDI)	H22.3.20	20名

計19回 908名

6. 関連学術団体との連携に関する事項(定款 第6条ロ)

平成21年度は、下記のほかに292件の協賛・後援等を行った。

- ・24学会共同シンポジウム「科学・技術による力強い日本の構築—我が国の科学・技術の進むべき方向と必要な政策」

(平成22年4月28日 本会ほか23学会共催)

- ・第2回私立大学合同シンポジウム「男女共同参画の輪をさらに広げよう」

(平成21年12月4日 文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業)

7. 専門講習会に関する事項 (定款 第6条ロ)

支部主催、本部支援の専門講習会を次のとおり開催した。

支部名	題 目	開催年月日	参加者数	場 所
北海道	3次元実装配線のいまと将来像～Cu多層配線の経験も交えて	H21.6.4	31名	北海道大学
東北	新たななるIT基盤技術への挑戦	H21.12.8	90名	弘前大学
信越	自然災害からの復興の取組みと課題	H21.12.10	96名	新潟大学
東海	EMCの現状と動向	H22.1.27	86名	ローズコートホテル
四国	LED技術者養成講座(生産工学, PLC基礎)	H21.7.24 ～7回	25名	阿南高専
	H8マイコンによる組み込みプログラミング入門	H21.11.14, 15	5名	香川高専
	インターネットを利用した遠隔制御入門	H21.11.28	5名	香川高専
九州	日本のネットワーク技術の最前線と今後の展開	H21.8.28	29名	長崎大学

計6回

8. 学生事業に関する事項 (定款 第6条へ)

8.1 会誌「学生会報告」欄の掲載記事

各支部学生会の活動状況等を会誌「学生会報告」欄に掲載した。

- ・平成21年7月号：平成20年度各支部学生会事業報告
- ・平成22年2月号：各支部・学生ランチ学生員の感想

8.2 学生員の入会勧誘

各支部に入会勧誘のためにPR用資料として、「ポスター」と宣伝を兼ねた「学生員入会案内」をそれぞれ配布した。

各支部において学生員増強基金を利用した学生員勧誘、学生ランチ設置校募集が行われた。また、学生員増強基金の有効利用、基金利用基準について検討を行った。

8.3 学生へ情報小冊子の配布

学生への情報小冊子「学生の皆さんへ」を10,500部作成し、年2回学生員及び各支部へ配布した。特に卒業(修了)予定の学生に対して会員資格手続きの早期連絡、正員に昇格する際の会費減額、会費未納者への支払勧奨を1月から毎月行い、会員継続を要請した。

8.4 学生ランチについて

平成21年度は、設置校申請20校(北大, 東北大, 慶大, 千葉大, 千葉工大, 津田塾大, 電通大, 東工大, 都立産業技術高専, 日本女子大, 信州大, 豊橋技科大, 名大, 名城大, 愛媛大, 香川大, 徳島大, 大分大, 福岡大, 琉球大)で活動を行った。

また、ホームページ「学生のひろば」に学生ランチ設置校の活動紹介記事及び設置申込みから報告書作成までの資料、流れを掲載し、学生ランチ設置校の拡大を図った。

支部活動として実施するため、設置校の申請を各支部を通じて受け付けることとした。また、各支部学生ランチ設置校の活動については、学生会連絡会に報告し、各支部学生が自主的に参加し、運営していける環境作りを検討する。

8.5 学生員向けコミュニティ

学生向けの在校生、地域別会員との交流の場(懇親を含む)企画実施について検討を行い、第1回学生員向けコミュニティを学生会連絡会后、①各支部ポスター展示、②各支部学生員のプレゼンテーション、③ディスカッション等の内容で開催することとした。

なお、これに関連して、総合大会では、大会担当支部持ち回りの各支部学生会員向けコミュニティ広場の提供に関する企画を継続し、継続的に開催することとした。

9. 男女共同参画に関する事項(定款 第6条ロ, ハ, ヘ)

電子情報通信工学分野において男女が共に、研究・開発・教育等の仕事や勉強、及び学会活動に、十分な力を発揮して快適に参画するための活動を推進した。

平成21年度の活動は以下のとおりである。男女共同参画学協会連絡会の幹事学会を務める。ここで、女性研究者活躍促進のための提言をまとめ、政府各関係者に提出。男女共同参画担当大臣らと面談する。女子高校生夏の学校～科学・技術者のたまごたちへ～に企画委員を出し、ポスター展示を実施。平成21年9月のソサイエティ大会と平成22年3月総合大会において、託児室を開設。平成22年3月総合大会で人材育成の特別企画を実施。

10. 検討部会に関する事項(定款 第6条へ)

10.1 他学会との連携

平成16年に「電気・情報関連学会連絡協議会」を足させ、共通の問題に対して協力して取組みを進めてきた。他学会への各種行事に会員扱いで参加を認め合い、共通のホームページを立ち上げて各学会のホームページとリンクを張るなど進めてきた。平成21年度は、新法人法に対する取組みを共通課題と位置付け、貴重な情報交換を行った。

11. 会員に関する事項(定款 第3章)

11.1 名誉員の推薦

- 内海 善雄 (JTEC)
- 小林 功郎 (東工大)
- 仙石 正和 (新潟大)
- 宮原 秀夫 (NICT)

を定款第7条イ項により名誉員に推薦した。

11.2 フェロー称号の贈呈

[基礎・境界ソサイエティ：7名]

贈呈者氏名	貢献内容
川北 建次	不均一分布定数線路の構成論と学会への貢献
貴家 仁志	信号処理分野における先駆的研究と教育
斎藤 利通	区分線形非線形回路の工学的応用に対する貢献
福田 収一	協調工学に関する研究とその発展への貢献
堀田 正生	システム LSI 用低消費電力ビデオ AD 変換器の開発
宮永 喜一	信号処理技術の高速・低消費電力化と国際的な学会活動の推進
渡辺 好章	超音波エレクトロニクス、特に非線形音響技術の発展に貢献

[通信ソサイエティ：29名]

贈呈者氏名	貢献内容
新井 宏之	小型アンテナの開発に関する研究とその実用化に関する貢献
雨宮不二雄	通信 EMC 技術の研究開発と国際標準化への貢献
家田 信明	技術者教育認定活動および継続的専門能力開発活動への貢献
石原 浩志	光ファイバケーブルと接続技術の実用化
江村 克己	光通信システムの高性能化に関する先駆的研究開発への貢献
大島 一能	光アクセスシステム及び ATM 伝送システムの研究開発への貢献
木下 耕太	移動通信用 TDMA および W-CDMA 方式の研究開発への貢献
久保田周治	ソフトウェア無線および無線アクセスシステムの研究開発への貢献
古賀 正文	フォトニックネットワークシステムの先駆的研究と実用化への貢献
小宮 一三	画像通信端末の先導的研究とファクシミリ端末世界標準への貢献
笹岡 秀一	移動通信における伝送・セキュリティ技術の先駆的研究への貢献

篠永 英之	マルチビーム衛星通信、長距離無線アクセスの研究開発への貢献
篠原 弘道	経済化光アクセスシステムの開発
竹中 豊文	ATM 交換システムと品質制御技術の研究開発への貢献
谷内 利明	通信用マイクロエネルギー技術の研究開発への貢献
野島 俊雄	ワイヤレス環境の EMI・EMC 評価技術研究とその発展への貢献
野本 真一	反射鏡アンテナおよび無線通信ネットワークの研究への貢献
初田 健	Ku/Ka 帯衛星通信方式と軌道有効利用の研究に対する貢献
原田 博司	ソフトウェア無線・コグニティブ無線機の実現に関する先駆的研究
春山真一郎	ソフトウェア無線プラットフォーム技術の先駆的研究開発
藤原 修	人体電波ドシメトリ及び EMC 研究への貢献
水本 哲弥	光非相反素子・平面光波回路とその全光ネットワーク応用
宮崎 哲弥	次世代光通信方式に関する先駆的実証研究への貢献
三宅 功	パケット統合ネットワークアーキテクチャの研究開発推進への貢献
村瀬 勉	マルチメディア QOS 実現のためのネットワーク制御技術への貢献
室田 和昭	デジタル移動通信高効率変復調方式の先駆的研究
森下 克己	光ファイバ光学とファイバ形状デバイス開発への貢献
山尾 泰	デジタル携帯電話用ハードウェア技術の先駆的研究への貢献
山林 由明	超高速光通信システムの基盤研究および実用化への貢献

[エレクトロニクスソサイエティ：7名]

贈呈者氏名	貢献内容
安藤 真	電磁波の高周波回折理論の構築と現象解明に関する研究
岩井 洋	極微細 MOSFET の高性能化プロセス技術に関する先駆的研究
小山二三夫	面発光レーザーの室温連続動作実現およびその応用と集積化の研究
桜井 貴康	VLSI の低電力回路設計および高精度デバイスモデルの研究
曾根 秀昭	電気接点の劣化機構解明と電磁ノイズ制御手法に関する先駆的研究
中屋 雅夫	システム LSI 実現のための要素技術および集積化技術の研究
橋本 修	数値計算手法に基づく電磁波吸収体の高精度評価技術の研究

[情報・システムソサイエティ：22名]

贈呈者氏名	貢献内容
有木 康雄	音声・画像情報の融合処理に関する先駆的研究
岩田 茂樹	計算量理論の先進的研究及び論文誌活性化
上田 修功	統計的学習とパターン認識に関する技術発展
大森 隆司	ヒトの認識・学習メカニズムに関する工学的モデル構築
久間 和生	光ニューロチップ、人工網膜 LSI の概念創出と実用化
栗田多喜夫	統計的パターン認識と画像認識に関する研究
坂上 勝彦	画像処理技術とその実世界応用に関する先駆的研究
酒匂 裕	画像・文字認識技術の産業応用
田島 譲二	カラー画像処理技術の開発及び3次元形状計測技術の開発
谷口倫一郎	コンピュータビジョンシステムの先駆的研究および教育
富永 昌治	デジタルカラーイメージングの基礎と応用に関する研究
内藤誠一郎	文字認識、3次元形状復元、視覚心理に関する基礎的研究
中川 正樹	オンライン手書き文字認識技術の発展とその応用
二矢田勝行	音声認識を中心とする新規技術の開発と製品化
畑岡 信夫	音声認識技術の実用化、特に組込み応用
馬場口 登	マルチメディアの知的処理に関する研究及び教育
古屋 清	ディベンダブルコンピューティング技術
前田 賢一	パターン認識技術の開発・発展ならびに学会活動
間瀬 健二	動画処理のインタラクション応用技術研究
美濃 導彦	情報メディアの実世界応用に関する先駆的研究
山下 雅史	分散型システムのためのアルゴリズム理論
山本 正信	動画処理の先駆的研究

11.3 シニア会員称号の贈呈

(基礎・境界ソサイエティ：91名)

会津 昌夫	青木 茂明	秋山い	わき	安倍 正人
阿部 淑人	有村 光晴	安藤 彰男	井家上	哲史
池口 徹	伊藤 良生	井上 徹	井 研治	
今井 幸雄	植松 友彦	内平 直志	内村 圭一	
遠藤 信行	太田 和夫	大橋 正良	大濱 靖匡	
小野澤 晃	海生 直人	梶川 嘉延	葛 崎偉	
鎌部 浩	唐津 治夢	川端 勉	川村 信一	
木村 晋二	国狭亜輝臣	黒沢 馨	黒田 一朗	
古賀 弘樹	小林 岳彦	齊藤 泰一	佐々木重信	
地主 創	渋谷 智治	白井 宏	白木 善尚	
杉山 賢二	高田 豊雄	高橋 規一	高橋 篤司	
高橋 宣明	田口 亮	武内 良典	竹内 真一	
竹森 敬祐	田中 久陽	田中 宏和	棚田 嘉博	
田村 裕	崔 博坤	萱木 禎史	趙 晋輝	
辻 孝吉	鶴原 穂也	長岡 浩司	中川 健治	
中西 功	中野 敬介	中村 英夫	中山 謙二	
蜂屋 弘之	羽田 陽一	林 隆史	平原 達也	
福田 収一	藤野 雄一	古川 昌司	古家 賢一	
堀田 裕弘	牧野 光則	松浦 幹太	松永 裕介	
松本 渉	三好 誠司	棟安 実治	村上 豊	
森田 啓義	柳澤 政生	山口 和彦	山崎彰一郎	
山田 光穂	山本 透	吉田 育弘	若井 一顕	
若林 一敏	和田 和千	渡辺 好章		

(通信ソサイエティ：109名)

青木 忠一	青木 道宏	赤池 武志	朝香 卓也
雨宮不二雄	新井 正伸	新井 芳光	有吉 正行
安 昌俊	石川 憲洋	石川 博康	伊東 匡
井戸上 彰	井上 隆	井上 真杉	岩田 淳
上谷 達也	上林 真司	上原 秀幸	宇野 浩司
江崎 浩	江村 克己	大木 英司	岡崎 直宣
岡田 啓	岡田 和則	岡部 寿男	尾林 秀一
柿沼 隆馬	岳 五一	笠原 英樹	風間 宏志
榎木勘四郎	川上 春夫	菊島 浩二	岸 洋司
北村 守	雲崎 清美	栗原 弘	黒川 章
黒川不二雄	合志 清一	河村 仙志	幸谷 智
小菅 義夫	齋藤 将人	相良 和彦	佐藤 拓朗
佐波 孝彦	清水 正利	下條 真司	荘司 洋三
庄納 崇	菅原 俊樹	杉浦 右蔵	杉山 敬一
関木 光	鈴木 利則	鈴木 恭宜	清野 浩一
関 智弘	関谷 勇司	外林 秀之	曾根 秀昭
高田 潤一	鷹取 泰司	武内 良男	竹内 嘉彦
竹内 和則	竹田 大輔	田島 公博	谷口 徹
太郎丸 真	坪川 信	鶴田 誠	田野 哲
戸出 英樹	土橋 寿昇	鳥越 史郎	中島 隆
長津 尚英	中村 真毅	中村 誠	長山 和弘
檜橋 祥一	能上 慎也	野原 光夫	長谷川 亨
端山 聡	樋地 正浩	ベンジャブール アナス	
北條 博史	星 敬一	正村 達郎	馬島 宗平
丸田 章博	三宅 優	宮澤 正幸	村上 龍郎
村田 英一	谷内 利明	山岡 克式	山崎 克之
山里 敬也	山田 寛喜	吉野 秀明	吉見 正信
若宮 直紀	渡部 信幸		

(エレクトロニクスソサイエティ：88名)

相本代志治	明吉 智幸	天野 主税	荒井 滋久
石川 容平	磯田 陽次	井田 実	板谷 太郎
板屋 義夫	井上 晃	井上 靖之	岩田 直高
上野 貴博	内田 浩光	浦野 正美	榎木 孝知
大石 敏之	大友 祐輔	岡崎 幸夫	岡崎 浩司
小口喜美夫	加藤 和利	狩野 文良	鬼頭 勤
葛原 正明	國弘 和明	久保 洋	小久保 優
小林 一彦	小林 潤也	佐川みすず	佐藤 圭

真田 篤志	重川 直輝	重松 智志	柴田 随道
肖 鳳超	末松 憲治	鈴木 扇太	鈴木 信夫
鈴木 康之	高橋 浩	竹内 博昭	竹内 正男
田中 昭生	辻 伸二	津田 裕之	東盛 裕一
豊田 一彦	中沢 憲二	長瀬 亮	永田 真
永塚 勉	中村健太郎	中村 誠	中山 純一
中山 正敏	西川健二郎	長谷川 誠	檜枝 護重
日比野善典	広瀬 佳生	深石 宗生	藤島 実
藤永 清久	前多 正	曲 克明	牧本 俊樹
松永真由美	丸野 透	丸橋 建一	美野 真司
宮崎 守泰	宮野 信治	宮本 智之	宮本 恭幸
村田 浩一	森 一富	矢加部利幸	八坂 洋
山内 和久	山田 浩	山崎 章司	湯本 潤司
横浜 至	吉田 清	李 可人	渡辺 克忠

(情報・システムソサイエティ：65名)

秋本 高明	阿久津達也	阿部 匡伸	天野 敏之
荒川 賢一	池田 和司	石橋 聡	市川 周一
井手 一郎	井上 潮	茨木 久	岩田 茂樹
内田 誠一	大村 弘之	奥 雅博	奥村 学
大淵 康成	角所 考	加藤 順	加藤 洋一
加藤 俊一	加藤 博一	加納慎一郎	亀田 能成
河井 恒	川田 亮一	菊池 淳一	岸上 順一
黄瀬 浩一	木ノ原誠司	熊澤 宏之	小池 淳
小池 康晴	児島 治彦	後藤 敏行	斎藤 英雄
榊原 憲	酒澤 茂之	佐藤 敦	沢田 克敏
椎名 毅	篠田 浩一	末吉 敏則	菅谷 史昭
杉山 将	鈴木 輝暁	鷺見 和彦	高橋 健司
武富喜八郎	武永 康彦	玉木 徹	外村 佳伸
富田 靖浩	中村伊智三	中山 雅哉	長谷 雅彦
林 泰仁	伴 秀行	廣瀬 明	堀越 力
前田 英作	目加田慶人	森 健策	森本 正志
渡辺 澄夫			

以上 353 名

11.4 会員の現況

会員数の減少を意識して平成 19 年度からの、①会費の前納制、②銀行・郵便局での自動引き落とし会費の 5%割引を継続的に実施した。これらの施策により平成 21 年度末の会員数は下表に示すように前年度と比較するとマイナスに転じているが、前納制移行前の減少と比較すると歯止めがかかった状態でもあり、更に継続的に調査を実施する。

会員数の減少に対する継続的な取組みとして、①各学生員に対して学生員から正員への移行時の 2 年間会費減額サービスの周知と「正員証」の送付、②支払いを忘れて滞納している会員に対して継続的な会費請求を実施、③学生員の意識向上を意識して学生ブランチ校の増大施策などを実施した。

(1) 会員数は次のとおりである。

上段：年度末会員数 () 内はフェロー会員数

下段：年度末会員数 (当年度会費未納者を除いた会員数)

会員種別	名誉員	正員	学生員	准員	特殊員	維持員	合計
平成 20 年度末会員数	86(28)	29,368(628)	5,867	2	353	201	35,877(656)
平成 21 年度末会員数	86(34)	28,906(674)	5,850	2	323	178	35,345(708)
前年度末との差	0(6)	-462(46)	-17	0	-30	-23	-532(52)
		-537	-96				-686

(注) 名誉員の嶋崎賢治は平成 21 年 5 月 8 日に、森田正典は 6 月 14 日に、緒方研二は 10 月 31 日に、岡村 進は 11 月 19 日に、宇都宮敏男は 11 月 26 日に逝去した。

(2) 各支部における年度末予定会員数は次のとおりである。

上段：年度末会員数 () 内はフェロー会員数
下段：年度末会員数 (当年度会費未納者を除いた会員数)

会員種別 支部	名誉員	正員	学生員	准員	特殊員	維持員	合計
北海道	1(1)	491(15) 451	242 238	0	4	4	742(16) 698
東北	8	895(45) 843	217 213	0	17	3	1,140(45) 1,084
東京	57(21)	16,286(416) 15,511	2,052 1,942	1	187	115	18,698(437) 17,813
信越	0	454(7) 425	138 131	0	7	6	605(7) 569
東海	5(4)	1,779(40) 1,668	433 410	0	31	13	2,261(44) 2,127
北陸	0	493(8) 460	148 141	0	5	1	647(8) 607
関西	11(6)	3,604(93) 3,393	713 660	1	41	27	4,397(99) 4,133
中国	1(1)	868(11) 804	282 260	0	11	3	1,165(12) 1,079
四国	1(1)	433(7) 379	183 167	0	6	1	624(8) 554
九州	0	1,306(26) 1,174	551 506	0	14	5	1,876(26) 1,699
海外在住	2	155(3) 138	4 4	0	0	0	161(3) 144
Overseas	0	2,142(3) 1,628	887 785	0	0	0	3,029(3) 2,413
合計	86(34)	28,906(674) 26,874	5,850 5,457	2	323	178	35,345(708) 32,920

II. ソサイエティ事業

ソサイエティ制開始14年目にあたる平成21年度は、各ソサイエティにおいても特色のある企画等を実施し、研究調査活動も順調に推移した。また、各ソサイエティの連携を図るためにソサイエティ連絡会を4回開催した。

◎ 基礎・境界ソサイエティ

平成21年度に行われた基礎・境界ソサイエティの活動のうち主なものを下記に示す。

(1) 新電子論文誌 Nonlinear Theory and Its Applications, IEICE (略称 NOLTA) の発行準備

新電子英文論文誌 NOLTA を発行する準備が以下のとおり進められた。

(a) NOLTA 発行に先立ち、基礎・境界ソサイエティの編集規程、運営規程、表彰規程、旅費規程、編集会議選奨規程等の改訂 (NOLTA の記述追加) が行われた。

(b) NOLTA 編集委員会が発足し、その約2/3が海外から選出された。引き続き平成22年10月創刊に向けて準備が進められている。

(2) SITA を IEICE に迎えるための準備状況

基礎・境界ソサイエティでは、「情報理論とその応用学会 (略称 SITA, サイタ)」を新たなサブソサイエティとして受け入れることを昨年より検討してきた。12月3日の SITA 総会で、SITA の IEICE への事業統合の提案が可決され、これを受け電子情報通信学会会長から SITA への歓迎レターを発送した。同時に SITA 統合のための事業統合検討 WG が発

足され、現在

(a) ESS 新体制, (b) 資金移行, (c) 会員資格移行, (d) 組織移行の四つの分野に関し議論が進んでいる。最終的に次年度9月の基礎・境界ソサイエティ運営委員会にて合意書原案承認のスケジュールを想定している。

(3) 基礎・境界ソサイエティの新しい選奨規程、電子メール審議内規の検討

これまで本ソサイエティに存在しなかった選奨規程、電子メール審議内規の制定の検討が進行中である。選奨規程としては、NOLTA 論文賞, Fundamentals Review ベストオーサー賞等の新設を含んでいる。これらは直近の運営委員会で審議される予定である。

(4) IEICE Global Plaza (ソサイエティメルマガ) への協力体制の確立

平成21年1月から、基礎・境界ソサイエティは IEICE Global Plaza (ソサイエティメルマガ) へ、毎月1編の寄稿をソサイエティ内で分担、協力してきた。平成22年度も21年度と同様の体制にて協力の予定を整えている。

(5) Fundamentals Review 誌の成果と現状

平成20年度から技術の原点という新しい寄稿のジャンルを立ち上げ、これまで年4号、各号解説論文4編以上の目標を達成した。また J-stage 移行もにらみ、音声ファイルやスライドファイル等、電子出版のメリットを最大限に生かした多様なメディアを導入し、J-stage への移行を平成22年7月号を目標に進行中である。

(6) 基礎・境界ソサイエティのホームページの一部リニューアル

従来のホームページに不足していた過去の運営委員会議事録アーカイブを新設し、またソサイエティの規程類を見やすく整理し利便性を改善した。現行の基礎・境界ソサイエティ留学生支援 Web サービスでは、今後、奨学金情報、国際会議開催情報等の情報提供部分を現状維持し、それ以外の部分を大幅に更新し、新規な方向の検討を開始している。これは、より広く国際化という枠組みから、多言語サービスの検討も含むものである。

(7) 遠隔会議システムの試験的利用

SITA 統合のための検討 WG では、これまで TV 会議 (遠隔会議システム (ポリコム)) が積極的に活用され、効果が得られた。ソサイエティでの会議 (ソサイエティ表彰審議委員会、幹事会) でも、その試験的な利用が行われた。

(8) ソサイエティ表彰者の決定

7月17日 (金) に早大においてソサイエティ表彰審議委員会を開催し、特別功労賞1件、功労賞4件、功労感謝状11件の表彰者を決定した。特別功労賞は中央大学の故 高窪統 (はじめ) 氏への贈呈と決定した。ソサイエティ大会期間中の9月16日 (水) に表彰式が行われ、故高窪教授へ特別功労賞の授与は、御遺族の代理にての授与となった。

(9) 活性化事業について

基礎・境界ソサイエティ活性化事業内規が制定された。また、平成20年度第2回活性化事業審査結果として下記の3件の承認が報告された。

(a) 「2009 APSIPA Annual Summit and Conference」開催のための経費補助

(b) Fundamentals Review 誌バックナンバー CD (DVD) 作成経費補助

(c) 新論文誌 Nonlinear Theory and Its Applications, IEICE 創刊準備

(10) 時限研究専門委員会の活動継続、第三種研究会の設

立

ネットワークダイナミクス時限研究専門委員会の2年間の活動の継続、及び第三種研究会「安全・安心な生活のための情報通信ネットワーク」の設立が運営委員会で提案され、承認された。

◎ 通信ソサイエティ

通信ソサイエティでは、新会計ルールに対応した健全な運営を行うとともに、執行委員会、会員サービス幹事、各特別委員、ソサイエティ編集会議、研専運営会議それぞれにおいてソサイエティの活性化、会員サービス向上のための施策を進めてきた。

(1) 財務管理

ソサイエティの独立採算化に向けた取組みを行う中で、ソサイエティの財務基盤は収入が微減ながらも、様々な費用効率化により堅調な基盤を維持している。したがって、財務施策としては、情報処理学会連催に伴う技報電子化トライアルシステムの改良、技報価格の低減化への費用投入を代表とする活性化施策の推進を行った。また、昨年度決算時から実施してきている一般社団法人法の適用を受けることによる、決算主義に基づいた新会計ルールの周知徹底と適用を国際会議関係者、研専活動関係者に対して改めて展開した。特に、主催・共催する国際会議の収支はソサイエティ会計に組み込まれるため、活動財務規模が拡大した数字での決算となった。

(2) 研究専門委員会

研究会活動を更に活性化させるため、多くの会員が技術研究報告を購入できるよう、研究専門委員会におけるコスト削減を図り予約価格の低減化を行った。技術研究報告の予約販売部数の減少傾向が継続的に見られることから、上述の価格低減化施策のみならず、研究会活動を会員に広く認知して頂くために、総合大会におけるパンフレット配布を含む広報活動を展開した。また、大会の活性化に向けた施策として、これまで研究専門委員会等の組織からの企画提案の道筋しかなかった点を改め、一般会員が大会企画を立案できるオープンコールの枠組みを提案し、通信ソサイエティを通じた大会委員会への働きかけにより、平成22年度秋のソサイエティ大会から実施できるよう体制が整えられた。更に、時限研究専門委員会のあり方に関する議論を研専運営会議において行い、設置期間延長審議にあたっては、延長回数や財政的貢献の一律的な規定は設けることはせず、技術領域の発展への寄与と活動実績の妥当性の双方の観点から、慎重に審議を行うことを決定し、今後の運営方針としてまとめた。

(3) 技報電子化

平成20年10月から技報電子化トライアルを実施し、そのトライアル利用者に対するアンケートを平成21年5月に実施した。その結果を分析した上で、①世の中の電子化の動向、トライアル会員の87%が賛成している状況から判断し、通信ソサイエティとして技報電子化(オンライン化)の実運用を進めること、②最初の実運用フェーズにおいては、現在の技報収支構造を崩さない、技報予約者を主体とした実運用を行うこと、を提言した。収支的に問題ないことを確認した上で、通信ソサイエティとして平成22年10月から実運用化することを決定した。今後、2回目のアンケートを実施し、実運用システムの詳細な実施方法を9月までに確定させる。

(4) 通信ソサイエティ Welcome Party

ソサイエティ会員、特に学生・若手研究者が気楽に集まり歓談できる場を提供することを目的として、ソサイエティ大

会初日(9月15日)に第2回通信ソサイエティ Welcome Partyを開催した。パーティーでは、学生会員へ向けて、企業・研究機関に所属する研究者に、社会人研究者としての経験を語って頂いた。また、通信ソサイエティで活発に研究発表している企業・研究機関や、通信ソサイエティに所属する研究専門委員会の活動を紹介するコーナーを設けた。200名を超す方々に御参加頂き、盛況のうちに終了した。

(5) CSアーカイブスサービスの実施

平成19年度に実施した会員サービスアンケートにおいて要望の多かった、総合大会及びソサイエティ大会の講演論文集をWeb上で閲覧できる新サービス「CSアーカイブス」の運用を平成21年5月から開始した。更に、平成21年3月の総合大会以降から通信ソサイエティの企画講演(チュートリアル、パネル、依頼講演)資料の一部を閲覧できる付加サービスも実施中である。

(6) 大会企画

大会参加者の満足度の向上と参加者の増加をねらいとして、2009年ソサイエティ大会(新潟大学)、2010年総合大会(東北大学)において、各々「最先端ICT企業エクゼクティブによるR&Dの今後の展望と課題」、「International Standardization Activities: Current Information for Practitioners of Communications Industry, R&D Labs, and Academics」と題してパネルディスカッションを行った。一流の講演者により、内容のある講演とパネルディスカッションが展開できた。参加者は、それぞれ約100、約50名であった。後者は内容の割りに参加者が少なかったが、パラレルに行われている企画セッションの数が多すぎることも一因と考える。

(7) 通信ソサイエティ論文賞

通信ソサイエティ論文賞として2008(平成20)年4月から2009(平成21)年3月発行の和英論文誌に掲載された論文の中から、優秀論文賞2編、チュートリアル論文賞2編、Best Paper Award 4編、Best Letter Award 2編、Best Tutorial Award 0編(該当なし)を選定し、更に21年度は和文マガジン・2007年度1編及び同・2008年度1編の計12編を選定し、ソサイエティ大会総会で総評披露とともに表彰式を行った。

これとは別に、和文論文誌編集委員会では学生等の若手研究者の研究活性化を図るため、21年度も学生論文特集号を企画し、掲載された論文25編の中から優秀な論文4編を選定し表彰した。

また、ソサイエティ共通の本部での論文賞と通信ソサイエティ独自の論文賞が、半年ずれて運用されていて課題が多かったため、それぞれの表彰の目的は維持したまま、来年度の両論文賞の選定から選定期間を同じにする統合選定プロセスに変更することとした。

(8) 国際関連

四つのシスターソサイエティ(IEEE ComSoc, KICS, KIEES, VDE/ITG)について、各学会・ソサイエティとの交流を継続するため、更新協定書(平成22年1月から有効)の再締結を実施した。協定の更新にあたっては、会員サービス向上並びに会員増強をねらいとして、シスターソサイエティ協定に基づく会費割引制度を本会規則へ新たに盛り込むための提案を会員増強委員会及び理事会に対して行い、理事会の承認を経て、一部の更新協定(KICS)については、先行して会費割引条項の盛り込みを行った。なお、別途、中国CICとの協定についても継続中である。また、海外在住会員及び国内会員へのソサイエティ情報発信をねらいとして、Global News Letterの発行を継続実施し、No.28～No.31の

4号の発行を行った。

(9) その他

通信ソサイエティ旅費規程及び通信ソサイエティ編集会議旅費規程を作成し、平成22年4月から施行することとした。

2. 国際会議に関する事項

通信ソサイエティ主催で3件、通信ソサイエティの研究会共催で1件の国際会議を開催した。また、通信ソサイエティとして6件、通信ソサイエティの研究会として4件の国際会議に対して協賛を行った。

◎ エレクトロニクスソサイエティ

2009(平成21)年度は、エレクトロニクスに関する材料、部品、デバイス、サブシステムの研究領域において、産官学連携促進、科学技術の進歩への貢献や、会員(研究者)の満足度向上を目的とし、全体を統括する運営/執行委員会のもと、「企画会議」、「編集出版会議」、「研究技術会議」の3会議体制で、本会全体及びソサイエティの活性化につながる新施策の検討及び具体化を進めている。現在の重要課題は会員減少対策と運営の効率化である。会員減少対策としては、20年度から開始した大会におけるソサイエティプレナリーセッション特別講演のビデオのWeb配信の拡充、プレナリーセッションプログラムの改善、技報アーカイブ化など会員サービス向上の施策を推進中である。また、運営の効率化としては、執行委員会資料データベース化、リーダーズミーティング(研専幹事向けオリエンテーション)などを進めている。以下、21年度のソサイエティの主な活動を三つの会議ごとに記す。

1. 企画会議

(1) 予算：公益法人法改正に合わせた会計基準のため、平成20年度末決算より国際会議及び研究専門委員会の収入・支出、収支差を本会の基本会計に組み入れることとし、平成21年度国際会議の活動及び収支、並びに研究専門委員会の平成22年度予算の集計を、研究専門委員会・研究技術会議の協力のもとで実施した。また、エレクトロニクスソサイエティ(エレソ)の更なる活性化に向けてエレソ独自の施策を立案実施する目的で使用できる「その他事業費」枠の充実を図り、特に、学生奨励賞、公開コンテンツの拡充、技報の電子アーカイブ化など会員サービスに向けた企画に予算を重点的に配分した。学会運営にかかわる会議、委員会に対する旅費規程も新規に制定し、予算確保を含めた暫定運用を開始した。

(2) 顕彰：学生会員活性化を目的としたエレクトロニクスソサイエティ学生奨励賞を継続して大会ごとに実施し、21年度計12名の表彰を行った。更に、エレクトロニクスソサイエティ会長特別表彰制度を創設し、ELEX創設に多大な功績のあった2名の表彰を行った。

(3) 広報：エレソ会員向けビデオコンテンツ公開システムの拡充、大会エレソプレナリーセッション、及びエレソ材料・デバイスサマーミーティングの特別講演の配信に加え、講演資料の添付も可能なシステムとした。更に、エレソNews Letterについて、従来の印刷・配布にこだわらない新しい配信方法の議論と新しい会員向け情報発信サービスの検討に着手。また、グローバル化を目指し、エレソホームページの英語版拡充に向けた議論を開始した。

2. 編集出版会議

編集出版会議では、会員である読者、投稿者にとっての論文誌とはどうあるべきかを考えつつ、投稿論文数の増加、投稿論文の効率的な査読による出版化等の課題を検討し以下のような点を実施してきた。

- (1) エレソ活性化予算として、掲載料の各種減額・免除、英文品質チェック、IEICE Electronics Express (ELEX) 宣伝パンフレットの作成などを提案し、実行に移している。
- (2) 電子ジャーナル形態に移行した和文論文誌及び英文論文誌の望ましい著者負担のあり方について議論を行っている。今後、検討結果をまとめ、他のソサイエティにも提案を行う予定である。
- (3) 和文論文誌は、活性化資金を活用し、500号記念特集号を発行するとともに第1号の復刻版も合わせて発行した。和文論文誌の発行部数は漸減の状況ではあるが、著名研究者による招待論文、解説記事は非常に評判が良く、今後の和文論文誌の方向性を決める上で大変役に立った。
- (4) 英文論文誌は、前年度に新設した「Brief Paper」の論文種別定着のため、News Letter等で会員へ周知するとともに、Letterへの投稿をELEXへ導くための方策を推進した。また、投稿の集中している分野の編集委員を増員し、投稿論文出版までの期間短縮、及び編集委員の負担低減を図った。
- (5) ELEXについては、会員加入の促進や査読プロセスの迅速化を図るため、投稿資格の変更、編集委員段階での採否判断手続きの導入、通信分野の編集委員増員等を行った。

3. 研究技術会議

- (1) 研究専門委員会：エレソの根幹を成す13の第一種研究専門委員会と12の時限(第二種)研究専門委員会が活発な研究活動を行った。また、平成21年度よりエレソ主催の国際会議であるURSIの国内委員会委員長を正式メンバーとした。
- (2) 国際会議：主催・共催3件及び協催(技術共催)・協賛案件6件を開催した(平成21年6月～22年5月)。
- (3) 2009(平成21)年ソサイエティ大会(新潟大)では一般講演403件に加えて、シンポジウム講演39件、ソサイエティ特別企画1セッション、チュートリアル2セッション、依頼シンポジウム1セッションを実施した。特にマイクロ波、光エレクトロニクス、集積回路等を含む様々なエレクトロニクス分野において情報通信社会の高度化を支えるデバイス技術に関する企画や発表が多く行われた。ソサイエティ特別企画「半導体レーザ実用化技術の歴史と展望」、チュートリアルセッション「More than Mooreを実現するMEMS融合LSI技術」など興味深い企画も充実し、多くの聴衆を集めた。
- (4) 研究会活性化費を運用して、電子ディスプレイ研究専門委員会が「第2回フレキシブルディスプレイシンポジウム」を開催した。今回12名の招待講演及び会場費として活用された。シンポジウムは、パネル部材・製造技術、表示媒体、駆動技術、応用/周辺分野の四つのセッションを設け、上流である基礎分野から下流の応用技術までカバーできるように配慮した。更に参加者が新しいディスプレイの出現を実感できるように、講演内容に関連したデモンスト

レーションを企画したところ、展示物の周辺は人だかりとなり、説明担当者は質問責めの状態であった。以上のように幅広い視点から議論する場を提供することにより、同分野の研究促進ができた。このほかにも5件の活性化費を利用した企画を承認した。

- (5) リーダーズミーティング（研専幹事意見交換会）を平成21年7月15日に行った。研究専門委員会運営にかかわる幹事、幹事補佐に参加してもらい、各会議から研究専門委員会に関する主要な伝達事項の説明を行い、交流を深めた。
- (6) 技報アーカイブについては、3月より最近の技報を会員限定でダウンロードできるサービスの試行を開始した。また、歴史的価値のある古い技報についてサンプル的に数部を電子化（スキヤナ読取り）し、将来のアーカイブ化の準備を開始した。

2010（平成22）年度は、前年度の活動を振り返りその効果と課題をチェックしながら、会員の満足度向上、ひいては我が国のエレクトロニクス分野の研究開発促進を目指し、一歩一歩着実に改革を進める予定である。

◎ 情報・システムソサイエティ

情報・システムソサイエティでは、平成21年度から本格的に実施されたソサイエティ独立採算体制へ円滑な移行を図るとともに、研究会や出版物による会員へのサービスの充実、若手技術者や学生への啓発・広報活動の促進、シンポジウムや国際会議の積極的支援、などに重点を置き、独立採算による自由度を生かした運営を行った。主な活動を以下に示す。

- (1) 中長期事業基金を活用した事業計画立案に係る指針の策定

学会としての情報・システムソサイエティの役割を踏まえ、中長期事業基金を活用した事業計画立案に係る指針として、以下の4項目に重点を置き、各研究専門委員会及び運営委員からの事業計画を募っていくこととした。「研究会活動の更なる活性化のための施策」、「論文誌とソサイエティ誌の更なる充実のための施策」、「若手研究者や学生等への広報活動を拡充するための施策」、「イノベーション創出を支援する場を拡充するための施策」。

- (2) FIT2009（情報科学技術フォーラム）の開催

ソサイエティ大会（ISS/HCG）と情報処理学会（IPSJ）の秋の全国大会を統合したFIT2009を、平成21年9月2～4日の3日間、東北工業大学八木山キャンパスで開催した。発表件数は、査読付き論文が84件、一般論文が774件の計858件であり、参加者数は1,595名であった。FIT2008では、発表件数・参加者数ともに前年比80%となっていたが、FIT2009では前年比118%と回復傾向にある。例年どおり、船井業績賞、船井ベストペーパー賞、FIT論文賞、FITヤングリサーチ賞を選定・表彰した。FIT2010は、九州大学伊都キャンパスで、平成22年9月7～9日に開催予定。

- (3) 2010年総合大会

東北大学川内キャンパスで平成22年3月16～19日に開催された2010年総合大会では、ソサイエティ特別企画として学生ポスターセッションを3日間にわたり実施し、前年比130%の189件の発表があった。期間中に優秀ポスター賞を選定し12名を表彰した。このほか、ユビキタスロボット、「五感」情報処理、組込みソフトに関する3件の企画セッションが開催された。平成21年度における情報・システムソサイエティの学術奨励賞受賞者8名への授賞式が3月17日に行

われた。

- (4) 選奨に関する活動

情報・システムソサイエティでは、ソサイエティの独自性向上と活性化のための施策として、サーベイ論文、先見論文、連作論文を選定対象とするソサイエティ論文賞を設定している。また、ソサイエティ活動について顕著な貢献があった会員を選奨する活動功労賞も設定している。平成21年度からは、従来の活動功労賞を「活動功労賞」と「査読功労賞」に発展的に分割し、貢献のあった会員を手厚く選奨できる体制とした。平成21年度はソサイエティ論文賞1編、活動功労賞10名、査読功労賞7名を選定し、11月26日に東京で授賞式を行った。

- (5) フェロー称号贈呈及びシニア称号贈呈

平成21年度のフェロー称号贈呈式を上記授賞式と同日（11/26）に東京で行い、22名の会員にフェロー称号を贈呈した。平成22年度からは、贈呈式を他ソサイエティと一緒にソサイエティ大会時に実施することとなる。平成21年度から設定されたシニア称号について、本ソサイエティ関連では65名の会員にシニア称号を贈呈した。

- (6) 研究会活動

平成21年度は、19の研究専門委員会（前年比1増）と八つの時限研究専門委員会により活発な活動を行った。第一種研究会開催総数は121回（前年比103%）、発表総件数は2,381件（前年比107%）であった。平成22年度から、情報論的学習理論と機械学習研究専門委員会を新設することにし、研究専門委員会の数は20になる。また、再生可能集積システム時限研究専門委員会も新設される。

- (7) 論文誌とソサイエティ誌

平成21年度に英文論文誌に掲載された論文総数は335編（前年比104%）、和文論文誌に掲載された論文総数は235編（前年比82%）であった。ソサイエティ誌は、年4回の定期号に加えて1回の特別号を発行し、特別号については全ソサイエティ会員に配布した。

- (8) 国際活動

本ソサイエティと、IEEE及びIEEE-CSとの連携協定について、会費の相互割引に関する規定を整理するとともに、連携強化に向けての対策を検討した。平成24年につくば市で開催される第21回パターン認識国際会議（ICPR2012）を、本ソサイエティと情報処理学会とで共同主催することとした。なお、この会議は、日本学術会議の共同主催国際会議候補に決定された。このほか、ISADS2011について共同主催することとした。

◎ ヒューマンコミュニケーショングループ

ヒューマンコミュニケーショングループ（HCG）は平成7年度に発足し21年度で設立15年目を迎えた。設立以来、人とコミュニケーション、情報メディアとコンテンツ、そして福祉と支援、という「人を中心として様々な境界領域の研究」を学際的に幅広く取り上げている。そのため、ソサイエティとは異なり、比較的小規模なグループという組織体系をとることにより、機動性のある分野横断的な活動を基礎的課題から最新のホットな話題に至るまで柔軟にかつ精力的に展開してきている。HCGの21年度の主な活動を以下に示す。

- (1) 研究会活動

平成21年度は、四つの第一種研究会、五つの第二種研究会、及び、三つの第三種研究会による体制により活発な活動を展開した。なお、第二種研究会のIEBは、21年11月から情報・

システムソサイエティ (ISS)へ移行した。第一種研究会は各々5～6回の研究会を、第二種研究会は3～6回の研究会を開催した。

(2) HCG シンポジウムの開催

ユニークさと機動性を生かし、研究会の更なる活性化と研究会間の連携を一層深めるため、新たな HCG シンポジウム 2009 を平成 21 年 12 月 10 日 (木)～12 日 (土) に札幌コンベンションセンターで開催し、多くの参加者により活発な質疑が行われた。口頭発表 63 件、インタラクティブ発表 25 件、企画セッション 3 件が行われた。シンポジウム論文集は DVD として発行した。招待講演 2 件「科学技術を文化に：その可能性を探る」、「初音ミク as an interface」を実施して、多くの聴衆を集めた。

(3) FIT, 総合大会活動

情報科学技術フォーラム (FIT2009) においても主催者側として協力した。総合大会では、基礎・境界ソサイエティから企画「言語のメロディーを学ぶ：日本語の韻律獲得研究から見えてくる言語発達のメカニズム」を実施して、多くの聴講者から好評を得た。

(4) 論文誌での活動

A 及び D 論文誌ヘリゾン委員を出して特集号の提案を行った。ヒューマンコミュニケーション特集 (和文論文誌 D) に「人間中心の情報環境構築のための要素技術」論文募集を平成 22 年 3 月 28 日締切りで行った。

(5) 表彰活動

平成 21 年度ヒューマンコミュニケーション (HC) 賞の選定を行い、HCG シンポジウム期間中の 12 月 10 日に 4 件の表彰式を行った。本賞は、第一種研究会の発表から、50 件に 1 件を目安に、各研究会で組織した HC 賞審査委員会において選考した。

HCG シンポジウム 2009 のインタラクティブ発表では、参加者の投票によるインタラクティブ賞の選考が行われ、3 件が選ばれた。表彰式は 12 月 10 日の懇親会で行われた。なお、投票を促進しシンポジウムを盛り上げるため、投票した人にも抽選で賞品を出した。

(6) 広報活動

例年、会誌へ同梱という形で HCG ニュースレターを発刊していたものを、広く会員外への情報発信を目的とし、電子版として 9 月 9 日と 1 月 29 日の 2 回 HCG のメーリングリストへ配信した。

HCG の HP を情報発信、ToDo リスト管理、アクセシブルの観点から課題の抽出作業を行い、22 年度に向けた改定作業の準備を行っている。

(7) 情報保障活動

HCG として本会自体が社会へ発信するメッセージの一つとして、情報保障の取組みと普及活動を積極的に行っている。

今年度は研究会に 4 回 (手話通訳のみ 2 回、要約筆記+手話通訳 2 回)、専門委員会に 1 回 (手話通訳のみ) の合計 5 回の情報保障を行った。

昨年度に引き続き、ヒューマンインタフェース学会と連携して、手軽な情報保障の方法に関する検討ワーキンググループを開催して様々な手法の評価を行っている。

情報保障の一般向け啓発書「会議・プレゼンテーションのバリアフリー」が平成 22 年 4 月 20 日に出版 (予定) である。

1. 大会に関する事項 (定款 第 6 条ロ)

1.1 ソサイエティ大会

下記の期日・会場において基礎・境界、通信、エレクトロニクスの 3 ソサイエティが合同して開催した。

期 日 平成 21 年 9 月 15 日 (火)～18 日 (金)

会 場 新潟大学 五十嵐キャンパス (新潟市)

参加者 3,093 名

懇親会 新潟大学五十嵐キャンパス内 生協第一食堂 参加者 165 名

(a) 企画セッション数

企画種別	大会委員会	ソサイエティ			合計 (実数)
		基礎・境界	通信	エレクトロニクス	
大会委員会セッション	3	—	—	—	3
ソサイエティ特別企画セッション	—	1	4	1	6
パネルセッション	—	2	6	0	8
チュートリアルセッション	—	3	6	1	10
依頼シンポジウム	—	0	1	1	2
合計 (共催を含む)	3	6	17	3	29

(b) 公募セッション講演数

	ソサイエティ			合計 (実数)
	基礎・境界	通信	エレクトロニクス	
一般セッション	210	962	403	1,575
シンポジウムセッション	* 14	* 115	39	158
合計 (共催を含む)	* 224	* 1,077	442	1,733

* 基礎・境界と通信の共催企画 10 件を含む。

1.2 総合大会

下記の期日・会場において 4 ソサイエティ (ヒューマンコミュニケーショングループは基礎・境界ソサイエティに含まれる) が合同して開催した。

期 日 平成 22 年 3 月 16 日 (火)～19 日 (金)

会 場 東北大学 川内キャンパス (仙台市)

参加者 4,994 名

懇親会 仙台エクセルホテル東急 ボールルーム 参加者 197 名

(a) 企画セッション数

企画種別	大会委員会	ソサイエティ				合計 (実数)
		基礎・境界	通信	エレクトロニクス	情報・システム	
大会委員会セッション	7	—	—	—	—	7
ソサイエティ特別企画セッション	—	0	2	1	1	4
パネルセッション	—	1	7	0	1	9
チュートリアルセッション	—	† 3	6	# 3	# 2	13
依頼シンポジウムセッション	—	0	5	1	0	6
合計 (共催を含む)	7	† 4	20	# 5	# 4	39

エレクトロニクスと情報・システム共催企画 1 件を含む。

† ヒューマンコミュニケーショングループの企画 1 件を含む。

(b) 公募セッション講演数

	ソサイエティ				合計 (実数)
	基礎・境界	通信	エレクトロニクス	情報・システム	
一般セッション	* 294	1,355	454	423	2,526
シンポジウムセッション	36	# 106	# † 60	‡ 28	215
合計	* 330	# 1,461	# † 514	‡ 451	2,741

通信とエレクトロニクスの共催企画 8 件を含む。
 † エレクトロニクスと情報・システムの共催企画 7 件を含む。
 * ヒューマンコミュニケーショングループの講演 64 件を含む。

1.3 FIT2009 (第 8 回情報科学技術フォーラム)

下記の期日・会場において情報・システムソサイエティ、ヒューマンコミュニケーショングループ及び情報処理学会が合同して開催した。

期日 平成 21 年 9 月 2 日 (水) ~ 4 日 (金)
 会場 東北工業大学 八木山キャンパス (仙台市)
 参加者 1,595 名
 懇親会 同キャンパス内 4 号館 B1F 食堂 参加者 100 名

イベント企画	研究会提案企画	10 課題
	委員会提案企画	3 課題
	現地提案企画	5 課題
船井ベストペーパー賞選考会		11 講演
査読付き論文		84 講演
一般講演		774 講演

2. 国際会議に関する事項 (定款 第 6 条ロ、へ)

次のとおり開催した。

会議名	開催年月日	参加者数	論文数	場所	
The 24th International Technical Conference on Circuits/Systems, Computers and Communications (ITC-CSCC 2009)	2009.7.5 ~ 8	487	447	Jeju island, Korea	ESS
2009 International Symposium on Electromagnetic Compatibility, Kyoto (EMC'09/Kyoto)	2009.7.20 ~ 24	409	212	京都	CS
Thailand-Japan Micro Wave (TJMW2009)	2009.8.20 ~ 21	110	40	Bangkok, Thailand	ES
2009 Topical Workshop on Heterostructure Microelectronics (TWHM2009)	2009.8.25 ~ 12	130	60	長野	ES
The 6th International Conference on Standardization and Innovation in Information Technology (SIIT2009)	2009.9.8 ~ 10	95	17	東京	CS
The 12th Asia-Pacific Network Operations and Management Symposium (APNOMS2009)	2009.9.23 ~ 25	218	82	Phoenix Island, Jeju	CS
2009 International Symposium on Nonlinear Theory and its Applications (NOLTA 2009)	2009.10.19 ~ 21	224	170	札幌	ESS
2009 International Workshop on Smart Info-Media Systems in Asia (SISA 2009)	2009.10.22 ~ 23	67	43	大阪	ESS
2009 International Workshop on Security (IWSEC 2009)	2009.10.28 ~ 30	83	19	富山	ESS
The Tenth IEEE Workshop on RTL and High Level Testing	2009.11.27 ~ 28	48	22	Hong Kong	ISS
21st ITC Special Seminar (ITC-SS21)	2010.3.2 ~ 3	27	15	宮崎	CS

3. 出版に関する事項 (定款 第 6 条イ)

3.1 和文論文誌の発行状況

各ソサイエティ別 (A・B・C・D) に 4 種類をオンラインジャーナルで公開し、オプションとして冊子体を次のとおり発行・配布した。

掲載総ページ数は 6,384 ページである。

分冊 分類	論文	レター	その他	計	特集回数 回	発行部数 (冊子体) 部
	件数 ページ数	件数 ページ数	— ページ数	件数 ページ数		
A	150	41	—	191	3	9,400
	801	198	137	1,136		
B	153	23	—	176	5	9,700
	1,658	104	156	1,918		
C	76	27	—	103	3	14,900
	707	91	134	932		
D	193	42	—	235	8	10,200
	2,039	157	202	2,398		
計	572	133	—	705	19	44,200
	5,205	550	629	6,384		

* その他: 総目次 54 ページ, 巻頭言 32 ページ, 英文誌紹介 106 ページ, 特集号募集案内等付物 437 ページ

3.2 英文論文誌の発行状況

各ソサイエティ別 (A・B・C・D) に 4 種類をオンラインジャーナルで公開し、オプションとして冊子体を次のとおり発行・配布した。

掲載総ページ数は 11,544 ページである。

分冊 分類	Paper	Letter	その他	計	特集回数 回	発行部数 (冊子体) 部
	件数 ページ数	件数 ページ数	— ページ数	件数 ページ数		
A	300	109	—	409	15	7,900
	2,642	447	171	3,260		
B	297	230	—	527	8	8,600
	2,732	916	180	3,828		
C	198	45	—	243	11	8,100
	1,391	159	130	1,680		
D	225	110	—	335	8	7,400
	2,178	432	166	2,776		
計	1,020	494	—	1,514	42	32,000
	8,943	1,954	647	11,544		

* その他: 総目次 128 ページ, Abstract 142 ページ, Foreword 52 ページ, 特集号募集案内等付物 325 ページ

3.3 電子ジャーナル

エレクトロニクスソサイエティでは、Web を用いたペーパーレス研究速報英文論文誌「IEICE Electronics Express (略称 ELEX)」(月 2 回発行) に 289 件、1,899 ページを掲載した。

平成 21 年 4 月に創刊 5 周年を迎え、6 月 10 日号に記念特集号を掲載した。また、平成 22 年 1 月から投稿資格を変更し、著者のうち最低 1 名は本会会員であることとした。

3.4 ニュースレター、ソサイエティ誌の発行状況

各ソサイエティ及びグループでは活動の一環としてニュースレター、ソサイエティ誌を下記のとおり発行した。

(1) 基礎・境界ソサイエティ

ソサイエティ誌 (Fundamentals Review)
4 回 288 ページ

(2) 通信ソサイエティ

マガジン誌 (通信ソサイエティマガジン)

- 4回 308ページ
Global News Letter 4回 64ページ
(3) エレクトロニクスソサイエティ
ニューズレター 4回 36ページ
(4) 情報・システムソサイエティ
ニューズレター 5回 108ページ
(5) ヒューマンコミュニケーショングループ
ニューズレター 1回 2ページ

3.5 IEICE Transactions Online

平成21年4月から特殊員に対するサイトライセンスの本実施が始まった。

4. 選奨に関する事項（定款 第6条ホ、へ）

所定の手続きによって選考が進められ、次のとおり各受賞者を決定した。

4.1 基礎・境界ソサイエティ

(1) 特別功労賞

業 績	貢 献 者
電子回路設計の優れた研究とソサイエティ活性化への著しい貢献	高窪 統 (中大)

以上1名

(2) 功労賞

業 績	貢 献 者
NOLTA2008 General Co-Chair としての貢献	遠藤哲郎 (明大)
ITC-CSCC2008 General Chair としての貢献	葛崎偉 (山口大)
ITC-CSCC に対する長年の貢献	牧野光則 (中大)
ASP-DAC2009 General Chair としての貢献	若林一敏 (NEC)

以上4名

(3) 功労感謝状

業 績	貢 献 者
英文論文誌編集委員として、多大かつ迅速な編集作業に対する功績	稲葉宏幸 (京都工繊大)
Fundamentals Review 編集活動への多大な貢献	鎌部 浩 (岐阜大)
信号処理関連の研究会、集会、国際会議等の運営に対する貢献	川村 新 (阪大)
英文論文誌編集委員として、多大かつ迅速な編集作業に対する功績	武内良典 (阪大)
第21回軽井沢ワークショップ実行委員長としての貢献	名嘉村盛和 (琉球大)
全国大会企画（回路とシステム）でのソサイエティ活性化への貢献	中村祐一 (NEC)
英文論文誌編集委員として、多大かつ迅速な編集作業に対する功績	南葉宗弘 (東京学芸大)
英文論文誌編集委員として、多大かつ迅速な編集作業に対する功績	松井 充 (三菱電機)
英文論文誌編集委員として、多大かつ迅速な編集作業に対する功績	宮嶋照行 (茨城大)
CST ソリューションコンペティションの実施運営・審査への貢献	宮本俊幸 (阪大)
CST ソリューションコンペティションの実施運営・審査への貢献	山口真悟 (山口大)

以上11名

4.2 通信ソサイエティ

(1) ソサイエティ論文賞

論 文 名	著 者 名
【優秀論文賞】 形状の異なる直線偏波素子を組み合わせた円偏波パッチアンテナ	野呂崇徳 (日本無線) 風間保裕 (JAXA) 高橋応明 (千葉大) 伊藤公一 (千葉大)
相関のある細矢のM分布に従う2変量の結合確率分布	真鍋武嗣 (阪府大) 中條 渉 (名城大)
【チュートリアル論文賞】 波面と鏡面	牧野 滋 (金沢工大) 片木孝至 (金沢工大)
多様なサービスを支える SINET3 の詳細ネットワーク設計	漆谷重雄 (NII) 松方 純 (NII) 阿部俊二 (NII) 計 宇生 (NII) 福田健介 (NII) 鯉淵道敏 (NII) 中村素典 (NII) 山田茂樹 (NII)
【Best Paper Award】 A Unified Handover Management Scheme Based on Frame Retransmissions for TCP over WLANs	Kazuya TSUKAMOTO (九工大) Shigeru KASHIHARA (奈良先端大) Yuji OIE (九工大)
A Variable Phase Shifter Using a Movable Waffle Iron Metal Plate and Its Applications to Phased Array Antennas	Hideki KIRINO (パナソニック 四国エレクトロニクス), Koichi OGAWA (パナソニック) Takeshi OHNO (パナソニック)
A Method for Converting Amplitude Probability Distribution of Disturbance from One Measurement Frequency to Another	Yasushi MATSUMOTO (NII) Kaoru GOTOH (NII) Takashi SHINOZUKA (NII)
MIMO-OFDM Precoding Technique for Minimizing BER Upper Bound of MLD	Boonsarn PITAKDUMRONGKIJ (東工大) Kazuhiko FUKAWA (東工大) Hiroshi SUZUKI (東工大) Takashi HAGIWARA (東工大)
【Best Letter Award】 Fabrication of Alternating-Phase Fed Single-Layer Slotted Waveguide Arrays Using Plastic Materials with Metal-Plating	Miao ZHANG (東工大) Jiro HIROKAWA (東工大) Makoto ANDO (東工大)
Effect of Heterogeneity of Tissues on RF Energy Absorption in the Brain for Exposure Assessment in Epidemiological Studies on Mobile Phone Use and Brain Tumors	Nadege VARSIER (首都大東京) Kanao WAKE (NICT) Masao TAKI (首都大東京) Soichi WATANABE (NICT)
【マガジン賞】 技術試験衛星 VIII 型「きく8号」の開発と運用	高畑博樹 (JAXA)
RFID タグ用アンテナ技術	高橋応明 (千葉大)

以上12編

4.3 エレクトロニクスソサイエティ

(1) ソサイエティ賞

分 野	業 績	貢 献 者
第1分野	微細 MOS トランジスタの特性ばらつきの研究	平本俊郎 (東大) 竹内 潔 (MIRAI-Selete) 西田彰男 (MIRAI-Selete)
第2分野	マイクロリング共振器光回路の先駆的・独創的研究	國分泰雄 (横浜国大)
第3分野	マイクロ波照射の生体影響の評価とその医療応用への技術展開	二川佳央 (国士館大)

以上3件

(2) レター論文賞

論文名	著者名
相互浸透型有機薄膜光電変換素子への酸化モリブデン陽極バッファ層挿入効果	堀 哲郎 (阪大) 芝田岳史 (阪大) キッティシユンチット ワレット (阪大) 藤井彰彦 (阪大) 尾崎雅則 (阪大)

以上1件

(3) ELEX Best Paper Award

論文名	著者名
Polarization and frequency division multiplexed 16 QAM coherent optical transmission with 8.6 bit/s/Hz spectral efficiency over 160 km	Hiroki Goto (東北大) Masato Yoshida (東北大) Tatsunori Omiya (東北大) Keisuke Kasai (東北大) Masataka Nakazawa (東北大)

以上1件

(4) 会長特別表彰

業績	貢献者
電子ジャーナル (ELEX) 創刊への貢献	井筒雅之 (東工大)
電子ジャーナル (ELEX) 創刊への貢献	辻 伸二 (日立)

以上2名

(5) エレクトロニクスソサイエティ学生奨励賞

分野	講演者
電磁波・マイクロ波	石川正行 (中大) 片岡祐介 (京大) デインチョング クアン (防衛大) 西田朋世 (豊橋技科大)
化合物半導体・光エレクトロニクス	神田昌宏 (東海大) 久野裕之 (東大) 高橋 央 (東大) 藤本吉秀 (阪大)
シリコン・エレクトロニクス一般	上野憲一 (北大) 片山善貴 (愛媛大) 仙石 昌 (信州大) 高山直輝 (東工大)

以上12件

4.4 情報・システムソサイエティ

(1) ソサイエティ論文賞

論文名	著者名
【先見論文】 ゼロサプレッション型二分決定グラフを用いたトランザクションデータベースの効率的解析手法	漆 真一 (北大) 有村博紀 (北大)

以上1編

(2) 功労賞
活動功労賞

業績	貢献者
英文論文誌編集委員としての貢献	赤穂昭太郎 (産総研)
データ工学研究会及び和文論文誌編集への貢献	有次正義 (熊本大)
リコンフィギャラブルシステム研究会運営及び英文論文誌・和文論文誌編集への貢献	飯田全広 (熊本大)
和文論文誌編集委員及び編集幹事としての貢献	伊藤彰則 (東北大)
英文論文誌編集委員としての貢献	岩本宙造 (広島大)
ソサイエティ誌編集幹事及び企画広報幹事としての貢献	亀井俊男 (NEC)

英文論文誌編集委員としての貢献	北村俊明 (広島市立大)
ニューロコンピューティング研究専門委員会幹事補佐としての貢献	柴田智広 (奈良先端大)
和文論文誌編集委員及び編集幹事としての貢献	松前 進 (佐賀大)
コンピュータ研究専門委員会幹事としての 若手研究者育成等への貢献	宮崎修一 (京大)

以上10名

査読功労賞

業績	貢献者
論文誌査読委員としての貢献	赤穂昭太郎 (産総研)
論文誌査読委員としての貢献	岩井儀雄 (阪大)
論文誌査読委員としての貢献	坂野 鋭 (NTT)
論文誌査読委員としての貢献	田川憲男 (首都大東京)
論文誌査読委員としての貢献	土屋達弘 (阪大)
論文誌査読委員としての貢献	堀 修 (東芝)
論文誌査読委員としての貢献	渡邊 睦 (鹿児島大)

以上7名

(3) 優秀ポスター賞

氏名	所属	氏名	所属
月森彩実	神奈川工科大	安田美智子	神奈川工科大
寺脇温晃	奈良高専	亀岡 薫	創価女子短期大
上野 聡	東北工大	伊藤健哉	東北工大
夜船誠致	広島市立大	中島聡太	芝浦工大
花村論志	電通大	三島 健	電通大
李 福実	名大	田中友規	鳥羽商船高専

以上12名

4.5 FITの各賞

(情報・システムソサイエティ及びヒューマンコミュニケーションングループと情報処理学会との合同)

(1) 船井業績賞

業績	貢献者
並列オブジェクト, Twitter, 新型ウイルス抗体解析	米澤明憲 (東大)

以上1件

(2) 船井ベストペーパー賞

論文名	受賞者
柔軟かつ複数プログラミング言語対応のテストカバレッジ測定フレームワーク	坂本一憲 (早大) 鷲崎弘直 (早大) 深澤良彰 (早大)
多機能コンセントのスケジューリング機能による待機電力の削減	明山寛史 (鳥取大) 川村尚生 (鳥取大) 菅原一孔 (鳥取大) 齊藤剛史 (鳥取大) 小西亮介 (鳥取大)
説得性に基づく情報推薦手法の提案「ぶらっとPlat@自由が丘」における統合された行動ログの活用	小柴 等 (NII) 相原健郎 (NII) 森純一郎 (東大) 武田英明 (NII/東大) 小田朋宏 (SRA 先端技研) 星 孝哲 (SRA) 松原伸人 (SRA 先端技研)

以上3編

(3) FIT 論文賞

論文名	受賞者
An LP-Based Heuristic Algorithm for the Node Capacitated In-tree Packing Problem	田中勇真 (名 大) 佐々木美裕 (南山大) 柳浦陸憲 (名 大)
高速復元可能な接尾辞配列圧縮法	田中洋輔 (九 大) 小野廣隆 (九 大) 定兼邦彦 (NII) 山下雅史 (九 大)
タスク割当てアルゴリズムにおける消費電力削減のための DVS 適用タスク選択機構	森裕一朗 (名 大) 朝倉宏一 (大同大) 渡邊豊英 (名 大)
局所変化率変換に基づく有声音の正弦波モデル	伊藤 仁 (東北大) 伊藤彰則 (東北大)
同期とグラフを用いたクラスタリング手法の提案と評価	速水雄太郎 (早 大) 菅原俊治 (早 大)
Effects of Multimodal Error Feedback on Human Performance in Steering Tasks	Minghui Sun (高知工科大) Xiangshi Ren (高知工科大) Xiang Cao (Microsoft Research Cambridge)
表形式の言語資源からのメタデータ抽出	石松昌展 (京 大) 田仲正弘 (NICT) 石田 亨 (京 大)
事例映像に基づくシーンに対する適応的音楽選択	金 壯一 (阪 大) 新田直子 (阪 大) 馬場口 登 (阪 大)

以上 8 編

(4) FIT ヤングリサーチアワード

候補者名	所属	講演番号	講演タイトル
上向俊晃	KDDI 研	RJ-002	動画像コンテンツにおける注視点マップと顕著性マップとの関係性に関する考察
石先広海	KDDI 研	E-035	自動 DJ ミックス再生における楽曲速度変化に伴う聴取者違和感指標に関する検討
松本 敦	東北大	C-036	非同期式ネットワークオンチップの回路レベル検証環境の構築
上野智史	KDDI 研	H-053	建物画像検索のための特徴点選択手法の一検討
田坂和之	KDDI 研	M-003	ホームネットワークでの移動端末によるコンテンツ協調再生方式
杉本樹世貴	山梨大	RE-003	Web によるドキュメント拡張を利用した音声ドキュメント検索
渡邊健司	阪 大	RK-006	固定カメラに対する周辺情報を考慮したズーム映像の生成
金子浩之	NHK	K-068	ネットワークアドリブシステムによる分散協調型番組制作
永徳真一郎	NTT	O-021	ライフログ利用サービスにおける開示情報制御方式に関する基礎検討—ライフログ提供に関する意識調査—
坂本一憲	早 大	RB-006	柔軟かつ複数プログラミング言語対応のテストカバレッジ測定フレームワーク
吉見真聡	同志社大	C-032	FPGA アレイ Cube を用いた文字列編集距離計算の性能評価
鈴木昭弘	北海道工大	K-023	幼児の空間認識機構を考慮した直感的インタフェースに関する研究

以上 12 名

5. 研究会等に関する事項 (定款 第 6 条口, ハ)

5.1 基礎・境界サイエティ

研究専門委員会及び研究会を次のとおり開催した。
研究専門委員会：39 回 第一種研究会：100 回 (うち地方開催 57 回)

また、第二種研究会、第三種研究会を開催した。

第一種研究会活動状況

注：研究会開催数の () 内は地方支部等での開催数

研究会名	専門委員長名	研究会開催数	発表件数
回路とシステム	藤澤 久典	5 (4)	145
情報理論	植松 友彦	6 (4)	148
信頼性	海生 直人	8 (5)	59
超音波	山田 晃	11 (2)	120
応用音響	浅野 太	9 (6)	114
非線形問題	山村 清隆	8 (6)	194
VLSI 設計技術	高橋 篤司	6 (4)	141
情報セキュリティ	寶木 和夫	6 (3)	172
信号処理	杉山 昭彦	6 (5)	193
ワイドバンドシステム	原 晋介	5 (4)	124
コンカレント工学	潮 俊光	4 (3)	56
思考と言語	野本 忠司	5 (1)	44
技術と社会・倫理	鶴岡 稔也	5 (3)	142
安全性	稲垣 敏之	6 (1)	30
ITS	加藤 晋	6 (4)	106
スマートインフォメディアシステム	田口 亮	4 (2)	78
合計		100 (57)	1,866

5.2 通信サイエティ

研究専門委員会及び研究会を次のとおり開催した。
研究専門委員会：62 回 第一種研究会：134 回 (うち地方開催 90 回)

また、第二種研究会を開催した。

第一種研究会活動状況

研究会名	専門委員長名	研究会開催数	発表件数
アンテナ・伝播	伊藤 公一	11 (6)	231
宇宙・航行エレクトロニクス	川西 登音夫	10 (4)	182
衛星通信	若菜 弘充	5 (2)	64
環境電磁工学	藤原 修	9 (5)	134
ネットワークシステム	山本 幹	10 (9)	262
情報ネットワーク	森川 博之	10 (8)	218
通信方式	石原 智宏	7 (7)	142
電子通信エネルギー技術	山下 隆司	6 (3)	70
光通信システム	鈴木 正敏	7 (6)	118
無線通信システム	佐和橋 衛	9 (5)	343
コミュニケーションクオリティ	吉野 秀明	5 (5)	119
フォトニックネットワーク	岡本 聡	6 (4)	107
光ファイバ応用技術	加島 宜雄	6 (5)	95
情報通信マネジメント	宇野 浩司	5 (5)	78
モバイルマルチメディア通信	上岡 英史	6 (5)	118
インターネットアーキテクチャ	尾家 祐二	8 (3)	151
ソフトウェア無線	上原 一浩	5 (2)	127
アドホックネットワーク	阪田 史郎	5 (3)	94
ユビキタス・センサネットワーク	戸辺 義人	4 (3)	86
合計		134 (90)	2,739

5.3 エレクトロニクスサイエティ

研究専門委員会及び研究会を次のとおり開催した。
研究専門委員会：27 回 第一種研究会：105 回 (うち地方開催 53 回)

また、第二種研究会を開催した。

第一種研究会活動状況

研究会名	専門委員長名	研究会開催数	発表件数
機構デバイス	長瀬 亮	10 (3)	143
磁気記録・情報ストレージ	中川 茂樹	7 (5)	68
超伝導エレクトロニクス	藤巻 朗	4 (0)	30
電子ディスプレイ	奥村 治彦	6 (1)	82
電子デバイス	橋詰 保	10 (8)	228
電子部品・材料	安井 寛治	10 (6)	163
電磁界理論	小見山 彰	4 (2)	163
シリコン材料・デバイス	渡辺 重佳	11 (6)	228
マイクロ波	本城 和彦	10 (7)	210
集積回路	内山 邦男	6 (3)	131
有機エレクトロニクス	丸野 透	10 (4)	100
光エレクトロニクス	浜本 貴一	10 (4)	215
レーザ・量子エレクトロニクス	石川 浩	7 (4)	206
合計		105 (53)	1,967

5.4 情報・システムサイエティ

研究専門委員会及び研究会を次のとおり開催した。
研究専門委員会：41回 第一種研究会：121回（うち地方開催79回）

また、第二種研究会を開催した。

第一種研究会活動状況

研究会名	専門委員長名	研究会開催数	発表件数
MEとバイオサイバネティクス	木竜 徹	9 (7)	130
ライフインテリジェンスとオフィス情報システム	力宗 幸男	6 (4)	128
画像工学	甲藤 二郎	9 (8)	201
言語理解とコミュニケーション	井ノ上 直己	4 (2)	80
コンピュータシステム	坂井 修一	7 (3)	158
コンピュータシミュレーション	徳山 豪	7 (5)	58
人工知能と知識処理	大須賀 昭彦	5 (2)	55
ソフトウェアサイエンス	鯉坂 恒夫	5 (5)	77
データ工学	石川 佳治	3 (1)	34
パターン認識・メディア理解	美濃 導彦	9 (7)	354
ディペンダブルコンピューティング	相京 隆	8 (3)	160
ニューロコンピューティング	廣瀬 明	7 (6)	189
知能ソフトウェア工学	大西 淳	6 (4)	71
音声	有木 康雄	9 (6)	198
教育工学	渡邊 豊英	9 (7)	131
医用画像	杉本 直三	5 (3)	163
ソフトウェアインタプライズモデリング	宮西 洋太郎	4 (0)	25
リコンフィギャラブルシステム	名古屋 彰	4 (2)	86
情報通信システムセキュリティ	中尾 康二	5 (4)	83
合計		121 (79)	2,381

5.5 ヒューマンコミュニケーショングループ

研究専門委員会及び研究会を次のとおり開催した。
研究専門委員会：13回 第一種研究会：20回（うち地方開催15回）

また、第二種研究会および第三種研究会を開催した。

第一種研究会活動状況

研究会名	専門委員長名	研究会開催数	発表件数
ヒューマンコミュニケーション基礎	武川 直樹	4 (4)	92
ヒューマン情報処理	喜多 伸一	5 (5)	210
マルチメディア・仮想環境基礎	中村 裕一	6 (4)	169
福祉情報工学	渡辺 哲也	5 (2)	89
合計		20 (15)	560

6. データベースに関する事項（定款 第6条ハ）

国立情報学研究所（NII）並びに、科学技術振興機構（JST）のデータベース作成に次のとおり協力した。

電子図書館（NII）：発行から2年後に全文を公開

会誌、和・英論文誌、技術研究報告、総合大会発表論文、サイエティ大会発表論文

J-STAGE（JST）：抄録のみ公開

会誌、和文論文誌、技術研究報告、総合大会発表論文、サイエティ大会発表論文

7. サイエティ及びグループ会員に関する事項（定款 第3章）

各サイエティ及びグループにおける会員数は次のとおりである。

上段：年度末会員数（ ）内はフェロー会員数

下段：年度末会員数（当年度会費未納者を除く）

	ESS	CS	ES	ISS	HCG	合計
平成20年度 未登録数	7,005(120) 6,623	13,066(217) 12,170	7,355(138) 7,014	12,239(181) 11,436	999 981	40,664(656) 38,224
平成21年度 未登録数	6,856(120) 6,447	12,808(245) 11,892	7,217(141) 6,766	12,194(202) 11,404	990 976	40,065(708) 37,485
前年度との 差	-149(0) -176	-258(28) -278	-138(3) -248	-45(21) -32	-9 -5	-599(52) -739

(注) ESS：基礎・境界サイエティ、CS：通信サイエティ、ES：エレクトロニクスサイエティ、ISS：情報・システムサイエティ
HCG：ヒューマンコミュニケーショングループ

Ⅲ. 支部事業

各支部において、講演会、講習会、見学会、大会等を次のとおり開催した。

1. 北海道支部

講演会	5回	専門講習会	1回
支部連合大会	1回	学生会講演会	3回
研究会	34回	学生会見学会	2回

2. 東北支部

学術講演会	15回	支部連合大会	1回
特別講演会	3回	研究会	45回
専門講習会	1回	学生向け事業	2回
先端技術シンポジウム	1回		

3. 東京支部

講演会	5回	研究会	186回
シンポジウム	3回	学生会講演会	2回
地域イベント	3回	学生会見学会	2回
見学会	1回	学生会研究発表会	1回
教育活動	8回	学生会報の発行	1回

4. 信越支部

講演会	12回	支部大会	1回
専門講習会	2回	研究会	10回
見学会	4回		

5. 東海支部

講演会	5回	研究会	35回
専門講習会	1回	学生会講演会	5回
見学会	1回	学生会見学会	1回
支部連合大会	1回	卒業研究発表会	1回

6. 北陸支部

特別講演会	1回	研究会	13回
講演会	12回	学生会講演会	9回
見学会	1回	学生研究発表会	1回
支部連合大会	1回		

7. 関西支部

講演会	3回	研究会	52回
中高生向け講演会	1回	ICTリメディアルカレッジ	4回
専門講習会	1回	学生会見学会	1回
見学会	1回	学生会研究発表講演会	1回
支部連合大会	1回		

8. 中国支部

講演会	8回	研究会	21回
専門講習会	4回	学生向け講演会	2回
支部連合大会	1回		

9. 四国支部

講演会	14回	学生会講演会	13回
専門講習会	3回	学生会展示会	3回
支部連合大会	1回	学生会見学会	1回
研究会	16回		

10. 九州支部

特別講演会	1回	研究会	70回
講演会	13回	学生会講演会	1回
専門講習会	1回	学生会見学会	2回
支部連合大会	1回	普及啓発活動 (シンポジウム)	1回

役員、評議員及び代議員の改選結果報告

平成22年度の役員、評議員、代議員の改選は所定の手続きによって行われた。平成22年2月10日に正員に投票を依頼し、3月1日に締め切り、その開票結果を理事会に諮り当選者を決定した。この結果、理事青山友紀、広崎勝太郎、吉田進、村田正幸、秋葉重幸、田中良明、大村佳久、山田敬嗣、酒井善則、持田侑宏、三木哲也、香田徹、澤谷邦男、益一哉、大田友一、及び監事正村達郎は退任することになり、新たに安田浩、中嶋信生、北山研一、江村克己、太田直久、今井浩、澤田寛、荒川薫、酒井善則、持田侑宏、三木哲也、貴家仁志、萩本和男、小山二三夫、石田亨が理事に、村上篤道が監事に就任することになった。

また、役員・評議員は選出代議員となる。

なお、本日の通常総会において退任、留任、新任される役員・評議員・代議員は次のとおりである。

役職名	退任	留任	新任
会長	青山 友紀		津田 俊隆
次期会長	津田 俊隆		安田 浩
副会長(在京)	広崎勝太郎	原島 博	中嶋 信生
副会長(地方)	吉田 進	小柴 正則	北山 研一
総務理事	村田 正幸	中沢 正隆	江村 克己
会計理事	秋葉 重幸	桑原 秀夫	太田 直久
編集理事	田中 良明	三宅 功	今井 浩
企画理事	大村 佳久	大石 進一	澤田 寛
調査理事	山田 敬嗣	安達 文幸	荒川 薫
編集長(理事)	酒井 善則		酒井 善則
企画室長(理事)	持田 侑宏		持田 侑宏
規格調査会委員長(理事)	三木 哲也		三木 哲也
ESS会長(理事)	香田 徹	松嶋 敏泰	貴家 仁志
CS会長(理事)	澤谷 邦男	並木 淳治	萩本 和男
ES会長(理事)	益 一哉	板屋 義夫	小山二三夫
ISS会長(理事)	大田 友一	横矢 直和	石田 亨
監事	正村 達郎	羽深 龍二	村上 篤道
評議員(在京)	梅比良正弘	大森 慎吾	市川 晴久
〃	江村 克己	唐沢 好男	茨木 久
〃	斎藤 洋	喜連川 優	坂庭 好一
〃	中嶋 信生	河村 仙志	田中 良明
〃	松井 知子	村瀬 淳	弓場 英明
評議員(地方)	尾家 祐二	大橋 正良	尾家 祐二
〃	大柴小枝子	三瓶 政一	大柴小枝子
〃	北山 研一	白鳥 則郎	佐藤 健一
〃	根元 義章	守倉 正博	山田 敬嗣
〃	松永真由美	安浦 寛人	山本 幹
評議員(会長指名)	浅見 徹	小川(荒川 薫)	

〃	石塚 勝	宮部 義幸 (古池 進)	
〃	計 宇生	田中 豊	
〃	小林 岳彦	趙 晋輝	
〃	一村 信吾	土井美和子	
〃	佐藤 健一	富田 義数	
〃	関根 好文	林 秀樹	
〃	田辺 史朗	福沢 恵司	
〃	久保田啓一	(村上 篤道)	
〃	山内 良三	ZHISHENG NIU	
評議員	北海道支部長		野島 俊雄
〃	東北支部長	*澤谷 邦男	畑岡 信夫
〃	東京支部長	篠原 弘道	山中 直明
〃	信越支部長	角山 正博	間瀬 憲一
〃	東海支部長	平田 富夫	西川 訓利
〃	北陸支部長	太田 聡	畔上 修一
〃	関西支部長	湊 小太郎	矢野 敏
〃	中国支部長	菅原 一孔	渡邊 正
〃	四国支部長	岩下 克	服部 哲郎
〃	九州支部長	山崎 正幸	吉田 啓二
評議員(学生会顧問)			
〃	北海道支部	岡本 淳	真田 博文
〃	東北支部	神原 利彦	永田 仁史
〃	東京支部	田中 聡久	藤吉 正明
〃	信越支部	山崎 克之	森迫 昭光
〃	東海支部	岩波 保則	増山 繁
〃	北陸支部	角 俊雄	奥田 篤士
〃		井上 恭	
〃	関西支部	(近藤 正彦)	大橋 正治
〃	中国支部	末松 伸裕	岡村 寛之
〃	四国支部	久保 智裕	中川 清
〃	九州支部	淡野 公一	千住 智信

備考：()内は年度の途中において交代した前任者を示す。

注意：*印は既に選挙で選出された理事または評議員であるため、会長指名評議員にはしない者。

役職名	退任	留任	新任
互選代議員	芥川 正武	安達 淳	生駒 哲一
〃	石黒 義英	伊藤 哲郎	伊藤 正人
〃	泉田喜一郎	井上 浩	上野 敦志
〃	伊藤 建一	宇津呂武仁	梅田久仁夫
〃	井原 武	榎木 孝知	梅田 幹雄
〃	植田 和憲	大塚 作一	大寺 康夫
〃	内田 誠一	大橋 正良	岡田 一泰
〃	榎本 崇宏	尾澤 勉	岡本 龍明
〃	大田 豊栄	梶 明夫	奥田 充紀
〃	太田 正哉	菅 隆志	奥村 幸彦
〃	大淵 康成	菊島 浩二	加賀田 俊
〃	金井 浩	北村 敏明	金寺 登
〃	上武 信夫	小久保 優	岸原 充佳
〃	川本 一彦	小柴 正則	北島 博之
〃	栗山 繁	小林 博文	齋藤 晋聖
〃	桑門 秀典	楠原久二男	酒井 清彦
〃	小鹿 哲	佐々木宣介	坂上 勝彦
〃	佐藤 健一	佐藤 栄一	楠 敏明
〃	白川 英規	島本 隆	桜井 優
〃	杉村 立夫	菅沼 拓夫	酒匂 裕
〃	武山 真弓	瀬濤 喜信	塩谷 浩之
〃	田村 裕	津田 裕之	杉浦 忠男
〃	塚田 裕章	中尾 剛	高田 喜朗
〃	辻 伸二	中川 健治	田中 久陽
〃	長嶋 祐二	西田 泰伸	田中 秀和
〃	中谷 祐介	林 崇文	都築 伸二
〃	野口 啓介	原 肇	戸島 秀喜
〃	野矢 厚	福迫 武	中尾 光之
〃	橋場 寛之	藤村 好美	中島 剛司
〃	林田 行雄	藤田 聡	中野 敬介
〃	張山 昌論	舟生日出男	波平 允敬
〃	福村 直博	増山 繁	野口 周一
〃	藤島 実	松下 雅仁	橋場 寛之
〃	堀田 英一	松田 弘成	長谷川 浩
〃	水本 哲弥	松永 昭一	林田 行雄
〃	宮崎 守崇	松山 光司	平山 信次
〃	柳澤 政生	美濃 導彦	前田 義信
〃	山口 雅史	武藤 聡	松永 裕介
〃	山本 学	村瀬 洋宣	眞鍋 佳嗣
〃	横矢 直和	安家 武	宮本 智之
〃	若林 秀昭	山本 真行	山田 光広
〃	綿谷 信義	渡辺 壮一	横田 浩二
〃			和田 千和